

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第19回幹事会議事次第

- 1 日時：令和4年3月7日（月） 13時30分～14時30分
- 2 場所：オンライン（Web会議システム Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱
陪席者：西田（防災科学技術研究所）、松本（〃）、倉谷（〃）、田代（〃）、高田（セコム）、
齊藤（筑波大学）、高野（〃）、秋葉（〃）、鈴木（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

- (1) 役員の任期満了に伴う選出について……………資料1
- (2) 総会・運営委員会委員の交代について……………資料2-1～2-2
- (3) 令和4年度コンソーシアム活動企画及び年間活動計画（案）について……………資料3
- (4) レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約別表の改正について……………資料4
- (5) Joint Seminar 減災との第2回共同シンポジウム開催報告……………資料5
- (6) Network Security Forum 2022（NSF2022）への後援について……………資料6-1～6-2
- (7) その他

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

- (1) 令和4年度協働大学院教員及び非常勤講師について……………資料7-1～7-2
- (2) 令和4年度開設授業について……………資料8
- (3) 紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としてのコンソーシアム活動報告刊行の
延期について……………資料9
- (4) 学位プログラムオープンキャンパスの開催について……………資料10
- (5) その他

（配付資料）

- 資料1 役員の任期満了に伴う選出について……………P.3～
- 資料2-1 総会・運営委員会委員名簿（令和4年3月7日版）……………P.9～
- 資料2-2 【参考】令和3年度総会・運営委員会委員名簿（令和3年10月13日版）……………P.10～
- 資料3 令和4年度コンソーシアム活動企画（案）について……………P.11～
- 資料4 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約別表の改正について……………P.13～
- 資料5 Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第2回共同シンポジウム開催報告……………P.20～
- 資料6-1 後援名義使用申請書（NPO 法人日本ネットワークセキュリティ協会）……………P.39～
- 資料6-2 Network Security Forum 2022 開催概要……………P.40～
- 資料7-1 令和4年度協働大学院教員一覧……………P.41～
- 資料7-2 令和4年度非常勤講師一覧（コンソーシアム参画機関）……………P.42～
- 資料8 令和4年度開設授業科目一覧……………P.43～
- 資料9 紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としてのコンソーシアム活動報告
刊行の延期について……………P.59～
- 資料10 リスク・レジリエンス工学学位プログラムオープンキャンパスポスター……………P.60～

令和4年3月7日

役員の任期満了に伴う選出について

現在のレジリエンス研究教育推進コンソーシアム役員（会長・副会長）においては、令和4年3月31日をもって任期満了となります。このことに伴い、次期役員（任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日）の選出をお願いいたします。

【審議事項】

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約第7条第2項・第3項に基づき、次期役員（会長1名・副会長2名、任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日）の選出をお願いいたします。

役職名	人数	選出方法	任期
会長	1名	正会員の中から互選により選出する。 （レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約第7条第2項）	令和4年4月1日～令和6年3月31日
副会長	2名	正会員の中から互選により選出する。 （レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約第7条第3項）	令和4年4月1日～令和6年3月31日

【資料】

別紙1 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会
平成29年12月26日制定
平成30年 7月19日改正
令和 2年10月16日改正
令和 3年 6月 8日改正

第1章 総則

(名称)

第1条 本コンソーシアムの名称は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称し、英語名を Resilience Research and Education Promotion Consortium（「R²EC」と略す。）とする。

(目的)

第2条 このコンソーシアムは、大学、研究機関、産業及び行政の連携・交流の促進を図るとともに、研究教育とその実用化を支援し、筑波大学とつくば市及び近郊地区の研究機関、企業等の連携により筑波大学に開設する協働大学院方式のリスク・レジリエンス工学学位プログラムを企画運営し、リスク・レジリエンス分野における日本ひいては世界の知と研究教育の核となる活動を支援することを目的とする。

(事業)

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 総会を開催し、リスク・レジリエンスに係る活動の連絡調整を行う。
- (2) 筑波大学に開設する協働大学院方式による学位プログラムへの参画団体、担当教員及び企画に関し調整を行う。
- (3) セミナー、講演会、研究会等を実施する。
- (4) コンソーシアムに関わる国内外の関連機関等との連携を推進し、必要に応じてシンポジウム等を開催又は共催する。
- (5) その他前条の目的を達成するための事業を適宜実施する。

第2章 会員

(会員)

第4条 コンソーシアムは、第2条の目的及び前条の事業を行うことに賛同する大学、研究機関、企業、団体、行政機関等（以下「研究機関等」という。）をもって構成し、会員の種別は、次のとおりとする。

- (1) 正会員 前条の事業を行う研究機関等
 - (2) 準会員 前条の事業の一部を行う研究機関等
- また、正会員・準会員（以下、「会員」という。）を別表により明記するものとする。

(入会・退会手続き)

第5条 入会を希望する研究機関等は、次の入会申込書をコンソーシアム会長あてに提出するものとする。

- (1) 正会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム正会員入会申込書（別紙様式1）
- (2) 準会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム準会員入会申込書（別紙様式2）

なお、退会の際は、別紙様式3により、会長あてに申し出るものとする。

(除名)

第6条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、除名することができる。

(1) 本規約又は関連する定めに反したとき。

(2) 本コンソーシアムの名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をする等、会員としてふさわしくない行為をしたと認められるとき。

(3) その他、除名すべき正当な事由が認められるとき。

2 前項の規定により、会員を除名しようとするときは、当該会員に予め通知するとともに、弁明の機会を与えなければならない。

第3章 役員

(役員)

第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。

(1) 会長

(2) 副会長 2名

2 会長は、正会員の中から互選により選出する。

3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。

4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。

5 役員の任期は、原則2年とし、再任は妨げない。

第4章 組織

(総会)

第8条 コンソーシアムの最高機関として、総会を置く。

2 総会は、会長がこれを招集する。

3 会長は、総会の議長となる。

4 総会は、次の委員で構成する。

(1) 正会員の代表者

(2) その他、会長が指名する者

5 総会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の改廃

(2) 会長及び副会長の選任

(3) 会員の入会又は退会、除名に関すること。

(4) 第3条に規定する事業の調整及び運営に関すること。

(5) その他、コンソーシアムの運営に関し必要なこと。

6 前項に掲げる事項の審議については、第9条に規定する運営委員会に付託することができるものとする。

(運営委員会)

第9条 第8条第6項の規定に基づき、総会の下に運営委員会を置く。

2 運営委員会は、会長がこれを招集する。

3 会長は、運営委員会の議長となる。

4 運営委員会は、次の委員で構成する。

(1) 正会員の代表者

(2) その他、会長が指名する者

5 運営委員会は、第8条第6項の規定に基づき、総会の付託を受けて、第8条第5項に掲げる事項

について審議を行う。

- 6 前項に掲げる事項の第8条第5項(3)の準会員に関すること、(4)及び(5)に係る審議については、第10条に規定する幹事会に付託することができるものとする。

(幹事会)

第10条 第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の下に幹事会を置く。

2 幹事会は、会長がこれを招集する。

3 会長は、幹事会の議長となる。

4 幹事会は、次の委員で構成する。

(1) 会長

(2) 副会長 2名

(3) 正会員の中から互選により選出する委員 若干名

(4) リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー

(5) その他、会長が指名する者 若干名

5 幹事会は、第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の付託を受けて、第8条第5項(3)の準会員に関すること、(4)及び(5)に掲げる事項について審議を行う。

(代理出席)

第11条 第8条第4項に定める総会の構成員、第9条第4項に定める運営委員会の構成員及び第10条第4項に定める幹事会の構成員は、それぞれの規定にかかわらず、やむを得ない事由により総会、運営委員会又は幹事会に出席できない場合には、代理人を出席させることができる。

2 前項の規定により、代理人が総会、運営委員会又は幹事会に出席する場合は、代理人の行為を総会、運営委員会又は幹事会の構成員の行為とみなす。

(議決)

第12条 総会、運営委員会及び幹事会は、過半数の構成員が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

2 総会、運営委員会及び幹事会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第13条 総会、運営委員会及び幹事会は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与)

第14条 コンソーシアムは、筑波大学に開設する、協働大学院方式によるリスク・レジリエンス工学学位プログラムの運営母体となる。

2 リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与は、筑波大学が定める規則等に基づき行う。

(事務)

第15条 コンソーシアムに関する事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、筑波大学の関連部署の協力を得るものとする。

第5章 雑則

(報酬)

第16条 会長、副会長、幹事及びその他コンソーシアムの運営管理に関与する者は、無給とする。

(解散)

第17条 コンソーシアムの解散は、総会において出席者の過半数の同意をもって決するものとする。

(その他)

第18条 本規約に定めるものの他、コンソーシアムの管理運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成29年12月26日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年7月19日から施行する。

附 則

この規約は、令和2年10月16日から施行する。

附 則

この規約は、令和3年6月8日から施行し、同年4月1日から適用する。

別表（第4条関係）

○ 正会員

区 分	機 関 等 名 称
企業	セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社
団体	一般財団法人 DRI ジャパン
研究機関	一般財団法人 電力中央研究所 一般財団法人 日本自動車研究所 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 National Science and Technology Center for Disaster Reduction
行政機関	
大学	国立大学法人 筑波大学

○ 準会員

区 分	機 関 等 名 称
企業	
団体	
研究機関	
行政機関	
大学	

（敬称略）

氏名	委員所属等	選出区分
会長 林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
副会長 甘利 康文	セコム株式会社 IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
副会長 遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群長 システム情報系教授	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー システム情報系教授	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
佐波 晶	大日本印刷株式会社 メディカルヘルスケア本部第2ユニット技術開発第2部第2グループ グループリーダー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
柳生 智彦	日本電気株式会社 セキュリティ研究所 主任研究員	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
真城 源学	東急プロパティマネジメント株式会社 BC研究センター 副センター長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
岡崎 勝彦	NTT宇宙環境エネルギー研究所 企画部長兼レジリエント環境適応研究プロジェクト プロジェクトマネージャー	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン 理事長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
星川 英	一般財団法人電力中央研究所 企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
安部 原也	一般財団法人日本自動車研究所 自動走行研究部 主任研究員	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航空交通管理領域 領域長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
玄地 裕	国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究部門長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
佐々木 哲也	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ 部長	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction（NCDR） Secretary General	第8条第4項（1） 第9条第4項（1）
石濱 悟	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局長 国立大学法人筑波大学 社会人大学院等支援室長	第8条第4項（2） 第9条第4項（2）

（参考）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- （1）正会員の代表者
- （2）その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- （1）正会員の代表者
- （2）その他、会長が指名する者

(敬称略)

氏名	委員所属等	選出区分
会長 林 春男	国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
副会長 甘利 康文	セコム株式会社 IS研究所 リスクマネジメントグループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
副会長 遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群長 システム情報系教授	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー システム情報系教授	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
佐波 晶	大日本印刷株式会社 ABセンター第3本部 事業開発第2ユニット 技術開発 第2部2G グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
柳生 智彦	日本電気株式会社 セキュリティ研究所 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
真城 源学	東急プロパティマネジメント株式会社 BC研究センター 副センター長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡崎 勝彦	NTT宇宙環境エネルギー研究所 企画部長兼レジリエント環境適応研究プロジェクト プロジェクトマネージャー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン 理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
星川 英	一般財団法人電力中央研究所 企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
鎌田 実	一般財団法人日本自動車研究所 代表理事 研究所長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
福島 幸子	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航空交通管理領域 領域長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
玄地 裕	国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 研究部門長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
佐々木 哲也	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ 部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction (NCDR) Secretary General	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
石濱 悟	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局長 国立大学法人筑波大学 社会人大学院等支援室長	第8条第4項(2) 第9条第4項(2)

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

本コンソーシアムは設立から今年で5年目となり、協働大学院方式による学位プログラムは、令和4年4月から3年目に入る。令和4年度は、**参画機関の皆様へのニーズ・意見をヒアリング**しながら、研究・教育の両側面で、各機関が**コンソーシアムのネットワークを活用**して新たな価値を生み出せるような仕組みづくりを推進する。

令和4年度コンソーシアム活動企画（案）

▶ 各参画機関のご要望・ご意見のヒアリング（4月以降順次）

筑波大学が、各参画機関を訪問し、これまでのコンソーシアム・学位プログラムでの活動を振り返ってのご意見や、今後のご要望等をお伺いする機会をもつ。

▶ 新たな共同研究創出に向けた「ピッチ会（仮称）」の開催（9月～12月頃予定）

各参画機関が最新の研究テーマ等を紹介するピッチ会を開催し、コンソーシアムのネットワークを活用した新たな共同研究創出のきっかけ作りの場を提供する。

▶ シンポジウムの開催

本コンソーシアムの活動をコンソーシアム内外に発信する（1～2回）。

▶ コンソーシアム紀要

これまでの学位プログラム紀要を発展させる形で、参画機関所属の研究者の研究成果を発表できる場として、コンソーシアムとしての紀要を整備する。

▶ 各種外部資金への申請

JST「共創の場形成支援プログラム」をはじめとした外部資金への申請を検討する。

（資料）

(別紙1)

令和4年度年間活動計画（案）

年月	総会・運営委員会	幹事会	シンポジウム・セミナー ・研究会等	リスク・レジリエンス工学 学位プログラム	その他
令和4年 4月		第20回幹事会 4月 日（ ）10:00～11:00 オンライン		オープンキャンパス 4月24日（日）9:00～16:30 オンライン	各参画機関のご要望・ご意見のヒアリング （筑波大学との打合せ） 4月～7月頃 日程や形態（場所）については、機関ごとに 個別に相談・調整。
5月	第5回総会 5月 日（ ）13:30～15:00 オンラインまたは東京開催（場所未定）				
6月					
7月		第21回幹事会 7月 日（ ）10:00～11:00 オンライン		博士前期課程推薦入試・博士後期課程内部進 学入試 7月6日（水）	
8月				博士後期課程入試 8月24日（水）・ ★8月27日（土） 博士前期課程入試 8月25日（木）	
9月					
10月	第6回シンポジウム・第13回運営委員会・第22回幹事会 10月 日（ ）10:00～11:00（幹事会），11:00～12:00（運営委員会），13:30～17:00（シンポジウム） 場所未定				
11月			第1回ピッチ会（仮称） 9月～12月頃（日時未定） オンラインまたは東京開催（場所未定）		
12月					
令和5年 1月				博士前期課程入試 1月26日（木） 博士後期課程入試 1月27日（金）・ ★1月28日（土）	
2月		第23回幹事会 2月 日（ ）10:00～11:00 オンライン			
3月	第14回運営委員会 3月 日（ ）13:30～15:00 場所未定				

注）★リスク・レジリエンス工学学位プログラム博士後期課程入試（社会人特別選抜）は、つくば地区以外に東京キャンパス文京校舎でも入試を行う。

令和4年3月7日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約別表の改正について

【概要】

(1) 改正理由

NTT 宇宙環境エネルギー研究所の入会に伴い、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約別表（第4条関係）の改正を行うものである。

(2) 改正内容

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約（令和3年6月8日施行）を、新旧対照表（別紙1）のとおり改正する。改正後の全文は別紙2のとおり。

【資料】

別紙1 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約の一部改正に係る新旧対照表

別紙2 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約（改正案）

(別紙1)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約の一部改正に係る新旧対照表

(下線部は改正部分。)

新	旧																								
第1章～第5章 (略)	第1章～第5章 (略)																								
<u>附 則</u> <u>この規約は、令和4年3月7日から施行し、令和3年10月13日から適用する。</u>	<u>(新規)</u>																								
別表(第4条関係) ○ 正会員	別表(第4条関係) ○ 正会員																								
<table><tr><th>区分</th><th>機関等名称</th></tr><tr><td>企業</td><td>セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社 <u>NTT 宇宙環境エネルギー研究所</u></td></tr><tr><td>団体</td><td>(略)</td></tr><tr><td>研究機関</td><td>(略)</td></tr><tr><td>行政機関</td><td>(略)</td></tr><tr><td>大学</td><td>(略)</td></tr></table>	区分	機関等名称	企業	セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社 <u>NTT 宇宙環境エネルギー研究所</u>	団体	(略)	研究機関	(略)	行政機関	(略)	大学	(略)	<table><tr><th>区分</th><th>機関等名称</th></tr><tr><td>企業</td><td>セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社</td></tr><tr><td>団体</td><td>(略)</td></tr><tr><td>研究機関</td><td>(略)</td></tr><tr><td>行政機関</td><td>(略)</td></tr><tr><td>大学</td><td>(略)</td></tr></table>	区分	機関等名称	企業	セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社	団体	(略)	研究機関	(略)	行政機関	(略)	大学	(略)
区分	機関等名称																								
企業	セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社 <u>NTT 宇宙環境エネルギー研究所</u>																								
団体	(略)																								
研究機関	(略)																								
行政機関	(略)																								
大学	(略)																								
区分	機関等名称																								
企業	セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社																								
団体	(略)																								
研究機関	(略)																								
行政機関	(略)																								
大学	(略)																								
○ 準会員 (略)	○ 準会員 (略)																								
別紙様式1～3 (略)	別紙様式1～3 (略)																								

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会
平成29年12月26日制定
平成30年 7月19日改正
令和 2年10月16日改正
令和 3年 6月 8日改正
令和 4年 3月 日改正

第1章 総則

(名称)

第1条 本コンソーシアムの名称は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称し、英語名を Resilience Research and Education Promotion Consortium（「R²EC」と略す。）とする。

(目的)

第2条 このコンソーシアムは、大学、研究機関、産業及び行政の連携・交流の促進を図るとともに、研究教育とその実用化を支援し、筑波大学とつくば市及び近郊地区の研究機関、企業等の連携により筑波大学に開設する協働大学院方式のリスク・レジリエンス工学学位プログラムを企画運営し、リスク・レジリエンス分野における日本ひいては世界の知と研究教育の核となる活動を支援することを目的とする。

(事業)

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 総会を開催し、リスク・レジリエンスに係る活動の連絡調整を行う。
- (2) 筑波大学に開設する協働大学院方式による学位プログラムへの参画団体、担当教員及び企画に関し調整を行う。
- (3) セミナー、講演会、研究会等を実施する。
- (4) コンソーシアムに関わる国内外の関連機関等との連携を推進し、必要に応じてシンポジウム等を開催又は共催する。
- (5) その他前条の目的を達成するための事業を適宜実施する。

第2章 会員

(会員)

第4条 コンソーシアムは、第2条の目的及び前条の事業を行うことに賛同する大学、研究機関、企業、団体、行政機関等（以下「研究機関等」という。）をもって構成し、会員の種別は、次のとおりとする。

- (1) 正会員 前条の事業を行う研究機関等
 - (2) 準会員 前条の事業の一部を行う研究機関等
- また、正会員・準会員（以下、「会員」という。）を別表により明記するものとする。

(入会・退会手続き)

第5条 入会を希望する研究機関等は、次の入会申込書をコンソーシアム会長あてに提出するものとする。

- (1) 正会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム正会員入会申込書（別紙様式1）

- (2) 準会員 レジリエンス研究教育推進コンソーシアム準会員入会申込書（別紙様式2）
なお、退会の際は、別紙様式3により、会長あてに申し出るものとする。

（除名）

第6条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、除名することができる。

- （1）本規約又は関連する定めに反したとき。
 - （2）本コンソーシアムの名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をする等、会員としてふさわしくない行為をしたと認められるとき。
 - （3）その他、除名すべき正当な事由が認められるとき。
- 2 前項の規定により、会員を除名しようとするときは、当該会員に予め通知するとともに、弁明の機会を与えなければならない。

第3章 役員

（役員）

第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。

- （1）会長
 - （2）副会長 2名
- 2 会長は、正会員の中から互選により選出する。
- 3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。
- 4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。
- 5 役員の任期は、原則2年とし、再任は妨げない。

第4章 組織

（総会）

第8条 コンソーシアムの最高機関として、総会を置く。

- 2 総会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、総会の議長となる。
- 4 総会は、次の委員で構成する。
 - （1）正会員の代表者
 - （2）その他、会長が指名する者
- 5 総会は、次の事項を審議し、決定する。
 - （1）規約の改廃
 - （2）会長及び副会長の選任
 - （3）会員の入会又は退会、除名に関すること。
 - （4）第3条に規定する事業の調整及び運営に関すること。
 - （5）その他、コンソーシアムの運営に関し必要なこと。
- 6 前項に掲げる事項の審議については、第9条に規定する運営委員会に付託することができるものとする。

（運営委員会）

第9条 第8条第6項の規定に基づき、総会の下に運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、運営委員会の議長となる。
- 4 運営委員会は、次の委員で構成する。
 - （1）正会員の代表者
 - （2）その他、会長が指名する者

- 5 運営委員会は、第8条第6項の規定に基づき、総会の付託を受けて、第8条第5項に掲げる事項について審議を行う。
- 6 前項に掲げる事項の第8条第5項（3）の準会員に関する事、（4）及び（5）に係る審議については、第10条に規定する幹事に付託することができるものとする。

（幹事会）

第10条 第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の下に幹事を置く。

- 2 幹事は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、幹事の議長となる。
- 4 幹事は、次の委員で構成する。
 - （1）会長
 - （2）副会長 2名
 - （3）正会員の中から互選により選出する委員 若干名
 - （4）リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー
 - （5）その他、会長が指名する者 若干名
- 5 幹事は、第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の付託を受けて、第8条第5項（3）の準会員に関する事、（4）及び（5）に掲げる事項について審議を行う。

（代理出席）

- 第11条 第8条第4項に定める総会の構成員、第9条第4項に定める運営委員会の構成員及び第10条第4項に定める幹事の構成員は、それぞれの規定にかかわらず、やむを得ない事由により総会、運営委員会又は幹事に出席できない場合には、代理人を出席させることができる。
- 2 前項の規定により、代理人が総会、運営委員会又は幹事に出席する場合は、代理人の行為を総会、運営委員会又は幹事の構成員の行為とみなす。

（議決）

- 第12条 総会、運営委員会及び幹事は、過半数の構成員が出席しなければ議事を開き、議決することができない。
- 2 総会、運営委員会及び幹事の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委員以外の出席）

- 第13条 総会、運営委員会及び幹事は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

（リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与）

- 第14条 コンソーシアムは、筑波大学に開設する、協働大学院方式によるリスク・レジリエンス工学学位プログラムの運営母体となる。
- 2 リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与は、筑波大学が定める規則等に基づき行う。

（事務）

- 第15条 コンソーシアムに関する事務を処理するため、事務局を置く。
- 2 事務局は、筑波大学の関連部署の協力を得るものとする。

第5章 雑則

（報酬）

- 第16条 会長、副会長、幹事及びその他コンソーシアムの運営管理に関与する者は、無給とする。

(解散)

第17条 コンソーシアムの解散は、総会において出席者の過半数の同意をもって決するものとする。

(その他)

第18条 本規約に定めるものの他、コンソーシアムの管理運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成29年12月26日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年7月19日から施行する。

附 則

この規約は、令和2年10月16日から施行する。

附 則

この規約は、令和3年6月8日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この規約は、令和4年3月7日から施行し、令和3年10月13日から適用する。

別表（第4条関係）

○ 正会員

区 分	機 関 等 名 称
企業	セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社 東急プロパティマネジメント株式会社 NTT宇宙環境エネルギー研究所
団体	一般財団法人 DRI ジャパン
研究機関	一般財団法人 電力中央研究所 一般財団法人 日本自動車研究所 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 National Science and Technology Center for Disaster Reduction
行政機関	
大学	国立大学法人 筑波大学

○ 準会員

区 分	機 関 等 名 称
企業	
団体	
研究機関	
行政機関	
大学	

令和4年2月24日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局

Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 第2回共同シンポジウム開催報告

下記のとおり、Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第2回共同シンポジウムを開催しましたので報告します。

【概要】

令和4年2月14日（月）、Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第2回共同シンポジウム「地域性を考えた減災・レジリエンスのあり方」を、オンライン（Zoom ウェビナー）で開催した。当日は大学、研究機関、企業、官公庁、その他団体等から307名の参加があった。また、19の学会、協議会、新聞社等から後援いただいた。

第1部では、株式会社ウェザーニューズ航空気象チームの小山健宏氏、国立民族学博物館超域フィールド科学研究部の林勲男氏に基調講演をいただいた。

小山氏の講演では、「航空気象（ドローンやヘリ等）から見た災害の地域性」をテーマに、航空機を用いた気象観測・災害対応の取り組みについて紹介いただいた上で、今後10年の重要な課題として、災害対応の安全性・機動力向上のための「空の情報一元化」による情報共有・統合の重要性が確認された。

林勲男氏の講演では、「災害文化の特徴とレジリエンスを中心に」をテーマに、一定の地域社会で伝統的に共有されてきた知識、価値観、行動規範である「在来知」と災害リスク軽減（DRR）の関係に関する研究の進展について整理していただき、その具体的事例として口承（歌）で過去の災害と教訓を伝えるインドネシアの災害文化を紹介いただいた。

第2部では、第1部で登壇いただいた小山氏、林勲男氏に加え、林春男氏（国立防災科学技術研究所理事長）、河田恵昭氏（関西大学社会安全学部特別任命教授）をパネラーに迎え、パネルディスカッションが行われた。前半は、第1部の講演内容を振り返りつつ「在来知」と「科学知」のバランス、葬儀のあり方の変化に象徴される日本社会の変化・IT社会の進展などの多様な話題について議論され、後半では参加者からQ&A機能を通じて寄せられた質問を取り上げる形で議論が展開された。参加者からは30件を超える質問・コメントが寄せられ、オンライン上での双方向的なディスカッションが実現した。

終了後のアンケート（回収率51.8%）によると、回答者の92%の方が本シンポジウムに満足したという結果が得られた。自由記述式の設問に対しても熱心な回答が見られ、特に、パネルディスカッションにおいて各々の専門分野を超えた分野横断的かつ多様な視点から議論が

展開されたことに対しては高い評価があった。

今回は、令和元年10月に開催された第1回共同シンポジウムの4倍以上の参加者数となり、「地域性」をキーワードとした防災・減災・レジリエンスに対する参加者の高い関心を知ることができたとともに、オンラインを通じて Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの活動を広めることができたことも、本シンポジウムの大きな成果であった。

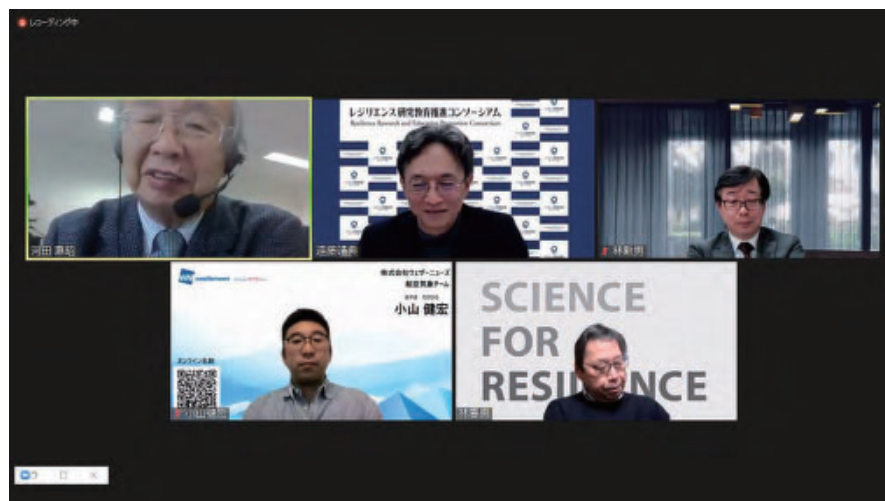


図 1. パネルディスカッションの様子

【別添資料】

別紙 1 シンポジウムポスター

別紙 2 アンケート集計結果



地域性を考えた減災・ レジリエンスのあり方

2022.2.14月 14:00~17:00

場所 オンライン(Zoomウェビナー)

(関西大学 梅田キャンパス KANDAI Me RISE 8階大ホールから中継)

参加無料
要参加申込

日本は複雑な地形のもとに多様な地域性が生まれています。災害・防災・減災・レジリエンスを考えたときに、このような地域性はどのように影響するのでしょうか。地域性というキーワードから、減災・レジリエンスのあり方を検討します。

総司会 木村 玲欧 氏 (兵庫県立大学 環境人間学部・大学院環境人間学研究科 教授)

14:00-14:05 開会挨拶・趣旨説明

林 春男 氏 国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長、
レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 会長、
Joint Seminar 減災 共同代表

第1部 基調講演

14:05-14:45 基調講演1「航空気象(ドローンやヘリ等)から見た災害の地域性」

小山 健宏 氏 株式会社ウェザーニューズ
航空気象チーム マーケティングリーダー

14:45-15:25 基調講演2「災害文化の特徴とレジリエンスを中心に」

林 勲男 氏 国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 教授

第2部 パネルディスカッション

15:40-16:55 パネルディスカッション
「地域性を考えた減災・レジリエンスのあり方」モデレーター: 遠藤 靖典 氏 (レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 副会長、
筑波大学システム情報系 教授、システム情報工学研究群長)

登壇者: 小山 健宏 氏 (株式会社ウェザーニューズ)

林 勲男 氏 (国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部 教授)

河田 恵昭 氏 (関西大学 社会安全学部 特別任命教授)

林 春男 氏 (国立研究開発法人防災科学技術研究所 理事長)

16:55-17:00 開会挨拶

河田 恵昭 氏 関西大学 社会安全学部 特別任命教授、Joint Seminar 減災 共同代表

申込締切 2022年2月13日(日)

参加申込QRコード▶
<https://r2ec.jp/jointsymposium2022/>

小山 健宏 氏



林 勲男 氏



河田 恵昭 氏



林 春男 氏

主催: Joint Seminar 減災、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

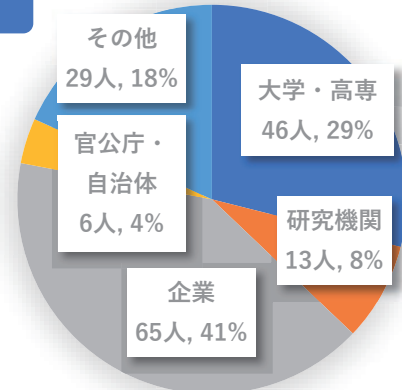
●お問合せ レジリエンス研究教育推進コンソーシアム事務局 (筑波大学システム情報エリア支援室)
TEL: 029-853-4975 E-mail: r2ec-contact@risk.tsukuba.ac.jp

Joint Seminar 減災・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
第2回共同シンポジウム（2022年2月14日開催） アンケート集計結果

■ アンケート回答者数：159名（シンポジウム参加者数 307名，回収率 51.8%）

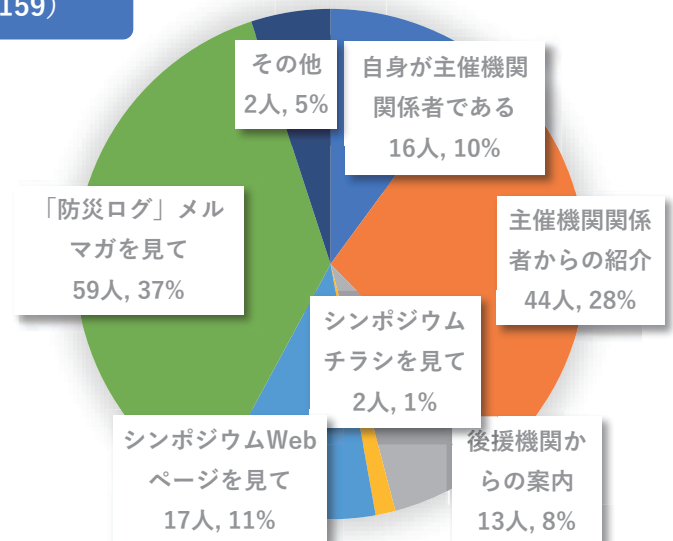
Q1. ご自身の所属機関等について教えてください。（N=159）

① 大学・高専	46
② 研究機関	13
③ 企業	65
④ 官公庁・自治体	6
⑤ その他	29
合計	159



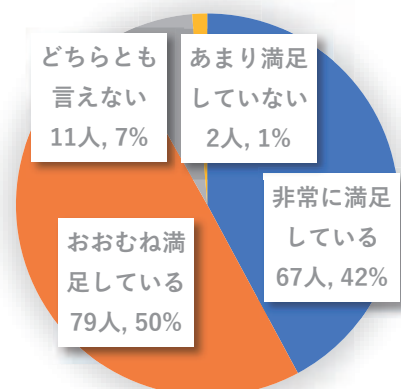
Q2. 本シンポジウムをどのように知りましたか。（N=159）

① 自身が主催機関関係者である	16
② 主催機関関係者からの紹介	44
③ 後援機関からの案内	13
④ シンポジウム Web ページを見て	17
⑤ シンポジウムチラシを見て	2
⑥ 「防災ログ」メルマガを見て	59
⑦ その他	2
合計	159



Q3. 本シンポジウムの満足度について教えてください。（N=159）

① 非常に満足している	67
② おおむね満足している	79
③ どちらとも言えない	11
④ あまり満足していない	2
⑤ まったく満足していない	0
合計	159



Q4. 基調講演 1 「航空気象（ドローンやヘリ等）から見た災害の地域性」（講演者：小山 健宏氏）について、ご意見・ご感想を自由にお書きください。（N=69）

[回答者所属機関（Q1）-参加きっかけ(Q2)別]

▼大学・高専

▼自身が主催機関関係者である
・現場の様子をご紹介いただき、とても勉強になりました。
▼主催機関関係者からの紹介
・画像を撮る以外にも測ることに使えれば良いな、と思っています。危険なところに行くことができますから。火山の火口上空から火山ガスを採取したりとか。
・災害時に空が混む話が印象的でした。
・申し訳ございません。本務の関係で参加することができませんでした。
▼後援機関からの案内
・2015年の鬼怒川水害で民放からの依頼でヘリに同乗して解説をした経験があります。東京港から30分程度で現地の上空に到着しました。しかし、現地はヘリの多いのに大変驚き、空中で接触事故が起きないか心配しながら同乗しました。ヘリはマスコミ、消防・警察などがあったかと思いますが、今後、ドローンなども加わると更に危険になるでしょう。大事故が起きないうちにルールが必要と考えます。
・益々の活用が期待される中、制御システムが構築されていく期待感が高い。法整備などはこれからとても大切な話だと思う。
・私自身林勲男先生に近い分野の専門であり、視点は「虫瞰」です。小山先生の視点が「鳥瞰」だったように思い、両者の比較を興味深く行っていました。
▼シンポジウム Web ページを見て
・Weathernewsの具体的で効果のありそうな仕組み作りの一端を興味深く拝聴いたしました。
・気象情報の現代社会における有用性、重要性について知ることができたことがよかった。
・大学でドローンの講習のようなものがあり、昨年は避けてしまったのですが、今回の講演をお聞きして今年度はぜひ参加しようと思いました。小型ドローンは操作したことがあるのですが、本物も捜査してみたいです。今後ドローンが増え、空での衝突事故などの二次災害は何としても防がないといけませんね。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・公共性としての情報共有が民間企業で実施されることに不安を覚えます。この部分は事業を切り離して一般社団法人化したほうが良いと思います。
・被災地に物資が届かないことを看護師として、いつもなんとかしてほしいという思いで見えています。航空気象があつてのドローンや空飛ぶ車、大変期待しています。
▼その他
・テクノロジーの進化によって災害の捉え方がどのように変わるのか、具体例を教えてください。
・災害対応のDX化を図る上で、欠かせない技術かと思いました。

▼研究機関

▼自身が主催機関関係者である
・ウェザーニュースの新たな一面を知ることができた。

▼主催機関関係者からの紹介
・ 航空気象技術について、初めて学ぶ機会となりました。
・ 新鮮な驚きがあった。ただ、これから調整が大変な要素も多いと思う。
▼シンポジウムチラシを見て
・ 林春男先生がパネルディスカッションで言っていたように、報道ヘリの情報も共有できるかというと思いました。
▼その他
・ このような視点で災害について考えることがなかったので、大変興味深く拝聴させていただきました。

▼企業

▼自身が主催機関関係者である
・ 気象の変調を AI がとらえて、無人で勝手にその場へ飛んで行って、変化の幅をみはってれていたら人には簡単にできない凄さが出るような気がします。そんなデザインを期待したいです。ありがとうございました。
▼主催機関関係者からの紹介
・ 「事中デジタル防災」という用語使いに感銘を受けました。
・ ご講演ありがとうございました。自然災害対策だけでなく様々な分野での気象情報の活用を学ばせていただきました。
・ 今後は米軍を含めた、防災上の空域の在り方も議論いただきたい。
・ 情報や運搬という「手段」の効率的管理ができてきているのは理解できたが、「何のために」「どう使う」が今後の課題になるのかな？と思いました。
▼後援機関からの案内
・ ウエザーニュース会社が天気予報以外に、災害活動に携わっていることを初めて知りました。
・ ドローンという切り口で最新の災害へのアプローチを知れたのは大変良かったです。
・ ドローン含め新たな技術の進歩が、災害という非日常を身近なものにできる可能性が理解できた
・ 緊急時には大きな武器
・ 航空気象や災害対応の日本における現状を初めて知ることができ、大変勉強になりました。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・ イベントや災害が発生しないと、仕組みができないのが残念です。
・ オリパラの話は興味深かった。
・ ドローンについての興味がわいた
・ ドローンの有効性と共に運用の難しさを認識できた。
・ ドローンやヘリコプター、空飛ぶ自動車が災害地に入ってくると、その連携性や衝突を防ぐ安全性などの問題を解決する必要がある。そのためのシステム対策も行われつつあると聞いて少し安心した。
・ ドローンやヘリの活用についての知識はありましたが、東京オリンピックを契機に空域の飛行制限が解かれていたことは初めて聞きました。ありがとうございました。
・ ドローン活用の可能性については、ハードウェアの進歩により更に広がるものと思う。小型飛行体にとどまらず、建機や農機で既にある程度の実用段階に入っているようなりモータ化のように人間が近づきにくい場所での調査や物品輸送などより多くの実例を積み重ね、標準化・基準化につ

ながると好いと思った。
・パネルディスカッションで林春男先生からもご指摘があった通り、最早、報道機関も国民に情報を伝えるという大義を振りかざして被災地の上空を飛行する時代ではありませんし、メディア側もそのことは理解しています。むしろ、河田先生がおっしゃたようにマスコミも同志とさせていただき、協力体制を作り上げる方が建設的だと強く感じました。
・緯度経度だけでなく、高度など、これから空の制御は大変になるばかりです。ドローン、ヘリ、飛行機などに、これからは通信機能を持たせて、お互いが通信して自動で制御できるようになれば、色んな課題もクリアできる部分は出てくるなあと、改めて感じました。
・気象と航空の深い関係がわかった。
・空の一元化の表現が良かったです。
・航空気象に関して、知らないことが多かったので大変勉強になりました。
・国土地理院では発災後、航空写真撮影とその公開もされています。同院との協同企画もされてはいかがでしょうか。
・災害現場では、現地確認、現地測量等日常的に UAV を利用しております。特に土砂災害については、地上踏査だけではわかりにくい地形、植生等を把握する場合有効性が高いツールとして活用しています。
・災害時の空は非常に混雑する、という話が印象的だった。オリンピックが、単なる協議会としてだけではなく、空での連携を実現できた場所だったことを初めて知った。
・進んだお考えに触れることができて、良かったです。
・多少テーマからずれていた感もあったが、1 民間企業の防災に関わる取り組みがわかり非常に有効であった。
・地域性への言及が少なかった。
・被災地の現場確認において、ドローンは必要不可欠なものとなっています。今後ますますドローンが一般人の日常生活に使用されるようになる中で、操作上の法的な規制が難しくなると感じます。
・非常に分かり易い内容であり、ウェザーニューズについてもさらに分かり良かったです
・聞けなかった。後々の先生方のディスカッションで防災の研究などに生きる事が分かった。

▼官公庁・自治体

▼主催機関関係者からの紹介
・聞き漏らしたのかもしれませんが、ウェザーニューズ社が取り組んでいられる事業に防衛や警察の航空機に発信器を常時設置しているのか、イベントに参加する航空機を特定して限定的に設置したのかの基本的なポイントが不明なので教えていただけると助かります。
▼その他
・具体例があり分かりやすかった

▼その他（所属機関）

▼主催機関関係者からの紹介
・これからの災害にもおおきに活躍してくれそうな予感がしました。
・最新の気象関係の技術と関係機関との連携が、災害にとって、重要な手段となっていることに感動しました。また、技術発展が、災害関係組織間の連携を有効に生かす一つの方法だということも理解出来ましたが、その連携を難しくしているのは、各組織を動かしている人材でもあることも分かりました。今後の進展に期待していますが、技術力の進展も大事ですが、その技術力を生かせる

人材の確保、養成がもっと大事な？と思いました。
・災害におけるドローン活用の将来性に期待します。
・自由自在そうな空間でも縦割りは続くのか。さもありませんが、早くなんとかしてほしいですね。イベントと災害は一緒のようで違うことを再認識しました。
・大きな災害であればあるほど、情報が途絶して把握しづらく、時間が経ってから被害の大きさがわかってくる。ドローンなどの活用は絶対必要。いろいろな問題もあるだろうが、活用の幅をもっと広げてください。
▼後援機関からの案内
・気象がドローンが防災減災に役立っていることが良く判りました。
▼シンポジウム Web ページを見て
・ドローンの活用については非常に刺激的であった。
・ドローンを使って被災状況を調査するという行動がこちらこちらで始まっているが、空の交通整理、情報の重複を避けて有効に活用させるなどの様々な課題があることは理解できた。引き続き、この問題を取り上げてフォローしていただきたい。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・これからの災害時には必要不可欠なものになると思います。アプリ使わせていただいています。
・これからは、ドローンのようなハイテク機器を駆使して、例えば、熱海で発生いたしました土砂災害の現場のような危険な場所を事前に確認できるようなといいと思いました。
・今まで考えてこなかったことで、災害時の「動態管理システム」の件など、民間のウェザーニューズが担っているとは驚きでした。確かに、会社のメインの事業が運行管理に関わる気象関係であることからの、ある意味、中立的自由度の点からの構築のし易さかもしれませんが、自分もパラグライダーフライヤーの端くれだったことから、ドローンも含めた3次元空間の動態管理を、気象予測も加味したリアルタイムで行うことが想像もつかないぐらい大変なことのようには思えます。今後の成果に大きな期待を持って、お力にはなれませんが、心から応援しております。
・参考になりました。一企業が各ぶしょの連携に寄与されていることは素晴らしい事だと思います。特に公は縦割りという考え方が多い。
・東京オリパラの時の経験を今後に生かし、災害時に空の安全が保てるように、ぜひ頑張ってくださいと思います。
・法的整備について、今後の方向性などが知りたくなりました。

Q5. 基調講演2「災害文化の特徴とレジリエンスを中心に」(講演者：林 勲男氏)について、ご意見・ご感想を自由にお書きください。(N=70)

[回答者所属機関 (Q1) -参加きっかけ(Q2)別]

▼大学・高専

▼自身が主催機関関係者である
・たいへん興味を持った。
・普段接することの稀な学問分野からのお話だったので、とても参考になりました。
▼主催機関関係者からの紹介
・最後に挙げられた参考文献一覧がとても役に立ちました。
・在来知があっても、それを活かすことのできない「文化」も存在するように思っています。広島

土砂災害をふりかえり、それを強く感じました。シンポジウムで「関心がなければ知識は伝わらない」ということを伺い、今後自分に何ができるのかを考えております。
・文化の背景には、代々の経験があるはずですが、その理由を知らないで受け入れている面があります。その結果として被災したとしても、それは新たな経験として、文化に加わるはずですから、そうやって次の世代に伝えていき、だんだんと被害が減って、子孫が繁栄するような方向に向かわせるのが文化なのではないかと感じました。
▼後援機関からの案内
・申し訳ありません、会議が入ってしまって、ほとんど聴けませんでした。資料を見ただけになりますが、災害「文化」という視点は持っていなかったので、勉強になりました。
・伝承をサイエンスでバックアップして伝えることが必要だと感じた。祭り・石碑・遺跡などはいろ いろな地域的災害伝承の意味を持っていると考えている
・復興、レジリエンスについて考える際、災害文化概念の時間的射程ではとらえきれない部分がある かと思います。最後の方で触れていただきましたが、「災害文化」に加えて「文化」という視点か らも考えることが重要だと思いました。
・民俗学の研究の立場から防災の「在来知」という視点が重要であることは、これまでも口伝、伝承 として知られてきたことと思います。古老による経験知といってもよいと思います。このような 「在来知」が河川、海岸、港湾、砂防などのハード面の技術に全く反映されていません。行政の担 当者が仕事をする上で、地元の古老の経験知や意見を反映するシステムを作ることが求められる と考えて居ます。コンサルタント丸投げですからマニュアルに沿った仕事なので実際の災害との 乖離が大きいことが、昨今の水害調査で分かりました。
▼シンポジウム Web ページを見て
・在来知ということの指摘とそのバリエーションを知ることができたことがよかった。
・私は大学で危機管理を学んでいます。濱口梧陵、津波てんでんこをはじめとする災害文化をよく授 業で取り扱っており、興味があったためとても面白い講演でした。
・大変興味深い内容であったが、この話をひととおりするには講演時間の配分が短かったと思いま す。別の機会や著作などがあれば読んでみたいと思いました。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・言葉の持つ力の重要性を改めて認識された。日本の石碑・記念碑のとの違い、ここに重みと非日常 の日常化があると思いました。
・和歌山の 2011 年の土砂災害では、龍神だったと思うのですが、高齢者が「ここから水が出たらや ばい」ということで対策をとられたと聞きました。土地の名前など災害文化を伝承する試みが大 切にされることを願います。
▼その他
・地域の災害文化、防災文化に加えて、「復興文化」（レジリエンスをめぐる文化）があるとしたら、 それはどのようなものか。
・復興文化を定着させることの必要性を強く感じるとともに、その難しさも感じました。

▼研究機関

▼自身が主催機関関係者である
・伝承の重要性を認識できた。
▼主催機関関係者からの紹介

・ 在来知と科学知とのバランスのとり方の微妙さを、改めて考えさせるご講演でした。
・ 文化として見ることで奥行きが広がり、新しい視点で考えられそうで興味深かった。
▼シンポジウムチラシを見て
・ 人の移動が多い現代において、災害文化の継承はどうあるべきか、考えるきっかけになりました。

▼企業

▼自身が主催機関関係者である
・ 人が行動を起こすメカニズムが、文化とし定着し機能すればすごく素晴らしいですね。そのためにはメディアはフル活用だと思っていますが、個人的には何が伝わる必要があるかを突き止めて、最適な伝え方を創造して行ければ良いなおもっています。ありがとうございました。
・ 津波に関する地域における伝承等、知らないことが多々あり、参考となりました。
▼主催機関関係者からの紹介
・ ご講演ありがとうございました。現代の日本の社会にあった在来知の残すしくみ伝えるしくみは難しいと思いますが、震災遺構と組合わせた観光等もありますので、地域で忘れられず、ビジターが知ることも可能かと思います。
・ シムル島のお話は興味深いものでした。
・ 少子高齢化、人口の流動化が進む日本で、地域での伝承は難しくなるのではないかと。スマホからの情報でも、それを理解できる（地震→津波とか）基礎的な知識は必要だと思われます。せめて地震や洪水や噴火などは理科の時間に学ばせたいですね。
・ 東北を回りながら、発見、気づきがあったことを改めて思い出しました。
▼後援機関からの案内
・ 災害の伝承、これは忘却の文化の日本人にとって大きな命題である
・ 災害文化という今まで目にしたことのない切り口で、とても新鮮に話を聞かせていただきました。
・ 身近にある災害文化に関心を寄せることが大切
・ 伝承文化の大切を知りました。
・ 難易度が高い面もありましたが、在来知というワードを中心に大変勉強になりました。
▼シンポジウム Web ページを見て
・ 国内には津波被害の事実と教訓を伝える石碑や伝承などが多く残されている。日本の津波碑は、年に 1 度の祭礼や儀式とともに伝承されてきたが近年の過疎化・高齢化・人工流動化等の社会の変化の中で災害対応能力が低下してきている。一方でアチェのナンドン・スモン（津波）は歌や口承等により日常生活の中に深く根付き伝承されている。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・ 「災害知」という言葉を始めて知りました。経験を伝承していくには、幼児期から教育現場であたりまえのように防災を学ぶ場を設ける必要があると感じます。
・ BCP 担当として、「在来知」の重要さは深く理解しています。勤務先の近くはかつて海だった場所も多く、近世までの旧地名には、そうした事実を反映する「崎」や「浪」「根」といった字が使われていました。それが、相次ぐ行政区の変化にともなって、地名も変わり、今では失われたものも多くございます。こうした旧地名、古地図と被災記録を最新のハザードマップに反映することは、「在来知」の活用としても効果的だと感じました。
・ インドネシアの例は非常に心に残りました。阪神淡路大震災の被災者として、改めて後世に残す、という必要性を感じました。

・こういったことについての認識が薄く、改めて理解できるいい機会であったと考えます。
・もう少し、災害文化の話を聞きたかったです。
・レジリエンスへの言及が少なかった。
・過去の災害履歴等の伝承を現在にいかに関活用するかは、大きな課題でしょう。特に過去に災害が起きて、今後も起きそうな場所の居住制限など簡単ではないでしょう。
・現代のように各種の記録媒体が大量の情報を蓄積しランダムにアクセスできる時代にあっても、好ましくないものや嬉しくないものに対する風化が著しいのは変わらない。むしろインプット情報が増えている分、忘れ去られるものも多いのだと思う。それだけに豊富に蓄積された情報を振り返りきかけとなり得る「何か」が重要だと思った。
・国土地理院の災害伝承碑の取り組みにも共通するものがあると感じました
・災害の伝承を日常に取り入れる何か工夫がしたくなった。
・災害文化、在来知の大切さがインドネシアのシムリ島の例でよく分かった。しかし、時間軸と共に科学知で補強して改善されていかなければならないことも分かった。
・災害文化はローカルなもの、地場のものなど、地域性に拘束されると聞き、防災や減災のための普遍的な方策を生み出すことの難しさを感じた。
・在来知の考え方は学びとなった。
・在来知の重要性と現代社会とのギャップを理解できました。
・新しい視点として災害文化は大事な視点だと思いました。活かすこととは別次元だと思いますが。
・人の記憶や感情に紐付けて、災害対応を行うことに限界を感じました。被害を受けた当事者以外は、10年たったら50%の人が忘れ、30年たったら90%は覚えていないような気がします。難しいですね。
・生活に根ざした伝承が重要だと認識しました。防災教育に携わる機会もあるので、役立てたいと思います。
・文化による伝承の違いが分かり、興味深く拝聴しました。
・文化の伝承は、どうあるべきなのか考えられました。
・聞けなかった。
・良いお話を聴くことが出来ました。ありがとうございます。

▼官公庁・自治体

▼主催機関関係者からの紹介
・伝承も教育の一環ですから、日本では防災教育として進めることになるのではないのでしょうか。ただ、伝承は時間とともに変異する場合があるので、常に科学的検証と併せて行うべきと考えます。
・独自の視点でのお話、大変興味深かったです。
▼その他
・あまりよく理解できなかった

▼その他（所属機関）

▼主催機関関係者からの紹介
・アチェの伝承歌、興味深いです。大衆文化になっているところがミソでしょうか。
・基本的に都合の悪い事は無意識的に考えない様になってしまうのが人間の性ではないかと思っています。何も対策しなかったらこういう目に遭うんだよということを強いメッセージで伝えていく

必要があるのではないのでしょうか。
・災害文化「在来知」の歴史とその重要性を改めて感じました。
・災害文化について、よく理解できました。
・途中までしか視聴出来なかったもので、よく分かりませんが、災害文化及びレジリエンスという言葉の意味は、理解出来ました。
▼後援機関からの案内
・防災減災文化について考察をお聞きして参考になりました
▼シンポジウム Web ページを見て
・災害文化とは、単に伝承碑であったり吊いのしきたりを考えていた。少しその背景を知り、考え方が変わった。
・災害文化について、それほど深く考えたことがありませんでした。被災地での Healing を含めて、文化的な視点から防災、減災、復興を考える必要があると感じました。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・今日の基調講演会は防災に関する「レジリエンス」は、建物の震災に対する強度のことかと思いましたが、私の考えと違っておりましたが、とても参考になりました。
・災害の伝承、日本ではうまくできていないように思えます。大槌町の津波の伝承石碑もいつの間にか消えていました。残さないといけない物がどんどん消えてしまう。
・災害発生の兆候や対応が、日常のイベントの際に歌われ、生活の中に根付いているというのは、理想の姿ですね。日常が平和だと、この状態がずーっと続くような錯覚に陥ってしまいます。災害は、すぐそこまで迫っているかもしれないのに！
・先の災害を教訓としての取り組みが、次の災害時に、如何に活かされて減災できるかが、「在来知」という初めて耳にした単語の意味かと思います。「在来知」は、その地域だけの限定的な要素が強いので、我々のような都内の私立学校の教員にとっては、一都三県から通学してくるどの生徒にも当てはまるものではないところや、自分自身未経験ゆえに中々伝えていきにくいのが正直なところです。やはり、スマホのアプリ的なものを期待していくしかないのかなと思っています。
・伝承について、興味深く学びました。
・特になし

Q6. パネルディスカッション「地域性を考えた減災・レジリエンスのあり方」について、ご意見・ご感想を自由にお書きください。(N=72)

[回答者所属機関 (Q1) -参加きっかけ(Q2)別]

▼大学・高専

▼自身が主催機関関係者である
・災害というものに対し多様な観点から議論が展開され、非常に興味深く拝聴しました。
▼主催機関関係者からの紹介
・スマホが自分中心のメディアという発想は、災害情報の受信発信に大事な意味を持ちそうです。マスメディアの放送とは違い、個人に届くだけでなく、個人からも発信できるため、その人だけの情報になりやすく、自分事としやすいメディアとして、役立てることができるのではないのでしょうか。
・河田先生、林先生の、さまざまな角度から生まれる問題提起やご発言が大変刺激的でした。とりわ

け、情報化が急速に進む中であっても、人の持つ感覚・感性を大切にしながら自然(災害)と向き合うことの大切さを、改めて確認できた気がいたします。
・河田先生のお話が印象的でした。
・碩学の災害観、社会観、法律観の議論は非常に刺激的です。
▼後援機関からの案内
・河田先生・・・いつもながらお元気です
・多岐にわたる議論、興味深く聞いておりました。「宗教」など後半のテーマについても、基調講演に引き付け、レジリエンスという観点からもう少し深めていただければと思いました。
・防災の「在来知」が河川、海岸、港湾、砂防などのハード面の技術に全く反映されていません。行政の担当者は仕事がコンサルタント丸投げですからマニュアルに沿った仕事なので実際の災害との乖離が大きいことが、昨今の水害調査で分かりました。社会が核家族化する中で在来知が口伝でにくい中で、ハザードマップだけでなく、住んでいる地域環境を具体的にリスクのある箇所をもっと公開して、地域ごとに知らせるべと考えます。
・話があちこちに飛んでいましたが、反って楽しめました。法律の話が印象深かったです。
▼シンポジウム Web ページを見て
・オンラインセミナーでは、当たり障りのないお話をされる方が多い中、いい意味で思い切った話が聞けてとても良かったです。河田先生のお話はおもしろいし、思い切っているけど、刺激が強いので、対面での開催であればもっと盛り上がったのであろうと思います。
・スマホの捉え方が興味深かった。仏教文化・キリスト教文化等の「河田節」絶好調で何か元気をもらいました。
・なるほど、というものや たしかに、というものがたくさんでとても勉強になりました。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・わかりやすくおもしろく興味深いお話をありがとうございました。一方で河田先生のように一流の高名な先生でもどうにもならないことがあることを知りました。諦めてはいけないけれども、どうすすめるのがよいのか考えさせられました。
・都合により、パネルディスカッションのみ参加させていただきました。地域性とそれを超える共通性が市民の日常生活の中にうまく捉えられ、判断、行動に結び付くようにするため、少しでも考え、行動していきたいと思いました。ICTを活用した「情報」に関連すること、また、視覚的な現象以外の「音」「匂い」などの感覚から得る手がかりのことなども興味深く聞かせていただきました。ありがとうございます。
・日本における多様性の欠如が世界の常識を受け入れられない部分があるように思えました。
▼その他
・もう少し学術的な話が聞きたかったです。
・レジリエンスの観点をもう少し出していただきたかった。河田先生、林（春男）先生など「ご老体」（失礼！）の方が他の「若い」先生より元気がよかった。これはどういうことでしょうか。

▼研究機関

▼自身が主催機関関係者である
・河田先生の葬式の話がおもしろかった。
・日本の社会の硬直性を認識できた。柔軟性が必要だが、官僚社会では難しいと思う。
▼主催機関関係者からの紹介
・宗教のお話しでもっと深掘りしていただきたかった。

・特に、防災を考える際の視野の多様性・複雑性について、興味を持って、お話をお伺いしました。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・法について、それぞれの先生の背景を知らないの、何を主張しているのか、理解できない部分があった。
▼その他
・パネラーの先生方の貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な時間でした。ありがとうございました。

▼企業

▼主催機関関係者からの紹介
・お葬式を事例とした議論、トンガに関連して未知と類推可能のお話し、法規制の見直しに関連して自然災害と戦争のお話しなどなど、知識が広がり、思い込みに気づかされ発想の幅が広がりました、ありがとうございました。
・できればもう少し論点を整理した議論が望ましいと思います。
・もう少し時間を取ってもらおうと、という気持ちです。
・欧米はコロナを戦争と思って対応しているというお言葉に納得が行きました。日本にはリーダーが信念をもって行動し、周囲を説得する体制は（特に今の内閣には）ないですね。危機管理の基本だと思うのですが。
・河田先生、林春男先生の激論を含めまして大変刺激的なご講演でした。遠藤先生、林勲男先生、小山先生、お疲れ様でございました。現代の日本の社会において、変わるべきところと変わるべきでないところなど、色々と考えさせていただく学びがありました。ありがとうございました。
▼後援機関からの案内
・パネルディスカッションは退屈な場合が多いですが、興味深く拝聴しました。
・楽しい時間でした。ありがとうございました。
・議論が白熱していて大変興味深く拝見いたしました。大変素晴らしい刺激を頂きました。
・自然災害だけでなく、今の感染症の日本という国の対応についてまでお話が多岐にわたり、大変興味深く拝聴させていただきました。
・日本人は仏教徒、常時と非常時を峻別できない、という河田先生の意見に納得 それ故、日本政府は非常時に対処できないに、さらに納得
▼シンポジウム Web ページを見て
・ご高名な両先生が喋りすぎている感あり。
・最後の方だけ参加したが、敵の出方で対応を変えるのが私達は苦手だと気付かされた。そのために、法律や宗教を学ぶ必要がある。特に、キリスト教や仏教の世界観を知ること、過去の出来事から教訓を得て守ること中心から脱却できる。その結果、組織の流動性が保障されるはずだ。
・本文化は仏教の影響を強く受けており欧米のキリスト教文化とは大きく異なっているため、立法政策や法律に対する考え方が大きく異なる。 トンガ大噴火による津波は気象庁では予測ができなかったとしているが、大規模な噴火が発生した場合に津波が発生することについては博士文として発表されていてこれを考慮すべきであると行政当局に働きかけたにも関わらず無視されたことは残念であるとの意見があった。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・ある事象に立ち向かう際、文化論、風土、あるいは宗教観などが大きく影響することを改めて認識しました。その観点で、どう防災をわかりやすくアピールするかの参考にできればと考えており

ます。
・とてもおもしろかった！災害はローカルなものだが、共通している部分はきっとあるから、そこから着手して、徐々にローカルな要素を組み込んでいく、という林春男先生の考え方はとても新鮮だった。そのような意識で災害の要素を分類していくことで、国内・海外問わず多くの人と協力しあうことができるのではないかと感じた。
・なかなか面白い視点もあり楽しかったです
・河田先生が繰り返し、おっしゃっていた「歴史を学べ」という考えに共感いたします。「稽古」（＝古を稽える）という言葉があるように、現在の事象は、過去の積み上げであって、派生形です。当然ながら、過去の事象と相似形のことも少なくありません。昨今の行動データの分析手法は、系統樹を辿る方法とも似ています。そう考えると、現代の膨大な情報をIT活用で見方をつけて、解析していくと、これから起こるかも知れないことを仮説推論で導き出すことも出来るのではと期待いたしました。
・議論は面白かったが、発散気味だった。
・現在は、スマホが身近にあり、GPS 機能で現在地で整理できるので、それも活用できる。災害時には、身近なスマホでの情報収集、情報発信を使い活用すべきだということの重要性が分かった。
・災害をいか「自分事（じぶんごと）」と考えるかの必要性も感じました。
・災害を自分事として捉えることを浸透させることの難しさを再認識しました。
・災害伝承の歌をつくってみたいとなった。
・色んなパネルディスカッションを拝見してきましたが、過去最高の内容でした。色んな学びを得られたと思います。
・先生方のバトルが面白かったです。こうでなくっちゃ、また、参加したいです。
・専門家の方々のお話は興味深く、楽しい時間でした。司会の方の司会進行のうまさに感心しました。
・多様な視点の話を興味深く聞かせていただきました。
・地域の災害の伝え方が地域により違い、後世に活きる伝え方が有る事が分かった。
・非常に勉強になりました。
・幅広いお話で、知見が広がりました。
・様々なお立場の有識者の貴重なご意見有難うございました。

▼官公庁・自治体

▼主催機関関係者からの紹介
・エキサイティングで大変刺激的なお話でした。
・非常に良い内容でした。現在の情報ツールが、次の時代にどの様に作用するのかを深く考える必要性を具体的に理解しやすく伝えられ、大変意義深い内容でした。
▼その他
・河田先生の若干ずれた意見により、議論がよく分からない方向に進んだ印象

▼その他（所属機関）

▼主催機関関係者からの紹介
・「地域性を考えた減災・レジリエンスのあり方」から日本人論、宗教論までの幅広い議論がなされ、見ていて楽しかった。

・なかなか大きな視点での議論となり、面白かったです。
・河田先生、林春男先生の横綱相撲が観れて楽しかったです。家族葬の話は面白かったです。コロナ対応の東西比較はその通り！と思いました。
・充実していました。
・政治家や権利擁護家等の災害対策がもう少し柔軟にならないと、なかなか対応が難しいと思っています。
・多岐にわたり貴重な除法（原文ママ）を得られました。ありがとうございました。
・防災教育という観点では、普段からできることはたくさんあると思います。住んでいる町やその周辺では過去にどのような災害があったかを知ることから、まずは始めていくことが良いと思います。色々と話し合うことで、知恵も出てくるのではないのでしょうか。
▼後援機関からの案内
・特になし
▼シンポジウム Web ページを見て
・ディスカッションの方向が時々変わっていく。できれば、もう少し整理し絞った方が分かり易いと思った。
・普段は接することのできない放談が飛び交って楽しませていただきました。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・演者の先生方が、たいへん熱くて、今後の励みと勉強になりました。
・河田先生の葬儀のことにつきまして、祖先を送る儀式としては、田舎者ものとしては甚だ怪しからんと思いますが、これも時代の趨勢でしょうか。
・半分は、川田先生と林春男先生の掛け合いとなっていて、それはそれで面白いところもありましたが、ある結論に収束するテーマではないこともわかってはいますが、少々、散漫とした感覚を受けたところがありました。その中で、遠藤先生による進行が見事だったと思います。
・面白かったです。各先生方のご意見はなるほどです。
・面白く聞かせていただきました。葬儀のお話は河田教授と同感でした。一人一人の人生の終わりが今はやりのやりかたでよいのでしょうか？疑問に思っています。災害死の方の送り方にも言えるかと思っています。

Q7. 全体を通してのご意見・ご感想や、次回以降取り上げてほしいテーマ等があれば、自由にお書きください。（N=60）

[回答者所属機関（Q1）-参加きっかけ(Q2)別]

▼大学・高専

▼主催機関関係者からの紹介
・（大変申し訳ありませんが）全体として散漫な印象を受けました（個々の話題提供とシンポジウム全体としての印象）。シンポジウムの準備と開催、ありがとうございました。
・またこのようなシンポジウムをお願いします。ありがとうございました。
・河田先生と林春男先生の掛け合いが、いつも刺激的で、楽しんでいます。
・時間があっという間に過ぎてしまうほど、充実した時間を過ごすことができました。すばらしい企画をありがとうございました。
▼後援機関からの案内

・「レジリエンス」側にも寄った内容も期待しています。
・次回の公開講座を楽しみにしています。
・都心などの「地元出身者が少ない短期滞在型」での防災活動事例などが知りたい（例えば学生の多いまち・外国人の多いまち）
▼シンポジウム Web ページを見て
・時間があっという間でした。たくさんを知ることができ、とても貴重な時間でした。参加してよかったですし楽しかったです。 私は今学生で、危機管理や防災を学んでいます。将来は災害から一人でも多くの人を救える人間になりたいと思っています。日々頑張ります。本日はありがとうございました。
・本日、話題にでていた自然災害と戦争の対比はもう少し深めてお聞きしたい内容でした。有事は有事でも、自然災害と戦争とで、リスク管理との相違点を整理できるセミナーがあればぜひ参加してみたいと思いました。
・率直な意見と討議でこのテーマの広がりやポイントを感得できたように思います。引き続き同様のテーマで継続開催（パネリスト選考に知恵をしばっていただき）を期待します。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・ぜひ、医療従事者や介護・福祉関係の方を巻き込んだシンポジウムを考えてほしいです。
・引き続き、「レジリエンス」にこだわった企画をしていただければ、と思います。企画・運営に当たられた皆さま、たいへんお疲れさまでした。
・日本でも外国人が普通に街中でみられるように、多様性が出てきていることから、TSUNAMI のような共通の災害リスク認識を取り上げてほしい。主に環太平洋での事例中心に。
▼その他
・基調講演は 30 分くらいでよいのでは？ディスカッションの方が面白い。
・自分の狭い視野が広がる貴重なお話ありがとうございました。

▼研究機関

▼自身が主催機関関係者である
・災害と鉄道などの交通の関係。
▼その他
・自分にはない視点から災害についてのお話を聞くことができ、改めて災害について考えるきっかけとなりました。

▼企業

▼自身が主催機関関係者である
・「文化背景、歴史背景による、リスクのとらえ方の違い」などのテーマが面白いのではないかと思います。
▼主催機関関係者からの紹介
・また、皆さんと直接お話ができる日を楽しみにしています。飲み会も(笑)
・河田先生がおっしゃったとおり、刺激的で楽しかったです！
・木村先生はじめ事務局の皆さま方、貴重な機会をいただきありがとうございました。次回も楽しみにしております。
▼後援機関からの案内

・医療や介護、教育の現場での減災対策など、特定の分野を切り口にしたテーマに興味があります。
・河田先生の閉会の挨拶「研究者も日々苦悩している。今日は良い刺激をもらった。」答えはない。そのとおりと思いました。
・企業にとっての災害リスクの考え方について、テーマとして取り上げて頂ければ嬉しいです。
・大変勉強になりました、次のウェビナーにも参加したいです
▼シンポジウム Web ページを見て
・パネルディスカッションだけ聞きましたが、参考になりました。午後、別の用事があったため、地域とレジリエンスなど同じような内容で開催された場合は検討したいです。登壇者にベテランの方がいると議論が白熱するなと感じました。
・今後の防災、災害対応を考えるうえで非常に参考となる意見等が沢山あり、とても有意義でした。
・土木だけでなく文化人類学的な分野など幅広い視点から発表があり、シンポジウムでは率直な意見が交わされ参考になりました。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・IT リスクなども加味して、トータルなリスク、という観点からの話も聞いてみたいです。
・テーマとして狭い分野になりますが、火山噴火と対応についてお話を伺えればと思います。
・とても活発なシンポジウムの議論であった。西洋と日本の思想の違いが分かり、その面でも有益であった。
・また参加したいです。
・河田先生の「仏教だから頭が固い」というのは、やや論が過ぎると感じました。西洋と東洋の二元論に持ち込むよりは、共通点から解決策を探る方が創発を引き出すことが出来るのではと思いました。井筒俊彦先生の『意識と本質』に見られるような柔軟な視点で答えの無い事象に向き合う方が有意義ではないでしょうか。是非、日本は硬直化していると見放すのではなく、知識と経験に依拠した様々な見方でそこを乗り越えるパネルディスカッションに臨場させていただきたいと存じます。
・会議の進行の仕方が非常に明快で、Web だけ参加している感覚の持てる運営の仕方だった。機会があれば、国際的な防災の枠組みについての議論をもっと聞いてみたい。
・楽しいシンポジウムでした。3 時間があっという間に過ぎました。次回を楽しみにしています。
・具体的な方法：避難の仕方・災害への備えなどが聞ければ良かった。
・今回の企画、大変勉強になりました。今後も開催案内をいただけると幸いです。企画、運営お疲れ様でした。
・時間の短縮化。
・次回もぜひ参加したいです。
・通信手段の漸弱性について、テーマとして欲しいです。
・同じようなものを定期的にお願ひします
・非常に興味深い内容が展開され参考になりました。今後も関心を持ってみてまいります。次回以降のテーマとしては、南海トラフ地震が起きた際、甚大な被害の想定もある中、我々はどうそれに対応していくのか、そこに向けて現時点で何ができているのか。あるいはそもそも、そうすると国として機能が維持できるのか含め、どう生き残る（広義で）かを探っていただきたい。
・非常に勉強になりました。
・有意義であった。
・良かったです。

▼その他
・大変変唆に富んだ内容であり、有意義なセミナーでした。今後も、楽しみにしております。

▼官公庁・自治体

▼主催機関関係者からの紹介
・講演資料について、前日までに配布いただければ事前学習ができるのでありがたいです。（現実には難しいと思いますがお願いします。）
▼その他
・新規性が乏しかった

▼その他（所属機関）

▼主催機関関係者からの紹介
・河田先生の締めにもありましたが、こうした多様な背景を持つ先生方を招いたシンポジウムはやはり面白く、勉強になります。コーディネータの遠藤さんもお上手ですね。
・次回もまた見たいと思いました。次回以降のテーマは「アフターコロナ時代におけるレジリエンスのあり方」です。
・有難うございました。
▼後援機関からの案内
・今後数年でドローンの未来・将来性についてお話が聞きたい。地域防災にドローンを導入しようと考えていますが、未来像はどうなるのか？どうもまだつかめません。
▼シンポジウム Web ページを見て
・災害復旧、復興の Phase について、多様な視点から取り上げていただきたい。
・大変勉強になりました。本日は参加させてくださりましてありがとうございました。
・特にありません。
▼「防災ログ」メルマガを見て
・火山噴火と、その被害を低減するための備えや対応について、取り上げていただきたいと思います。本日は、ありがとうございました。
・今回、初めて視聴させていただき、ご高名な先生方の人間性が垣間見えるディスカッションなど、楽しませていただきました。もちろん、教員として防災士としてこれから自分にできることや、やらなければならないことを考えていくための知識や情報を仕入れる良い機会になりました。今後も、このような機会を紹介していただきたいと思っています。
・少し専門的で内容に理解できないところのありました。防災に立ち触るものとしてはの心構いとうについての講演などに関心がある。
・発災時の各関係貴下の連携について知りたいとおもいます。
・有難うございました。またの機会を楽しみにしています。

2022年 2月 15日

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

会長 林 春男 殿

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-12 JCビル4F
特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会
事務局長 下村 正洋

「Network Security Forum 2022 (NSF2022)」に対する
後援の名義使用の承認申請について

平素は本協会の活動にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび私どもでは「Network Security Forum 2022 (NSF2022)」を2022年3月8日、9日、10日の3日間にわたり、オンライン開催する運びとなりました。つきましてはレジリエンス研究教育推進コンソーシアム様のご後援名義を賜りたく、以下のとおり申請させていただきます。何卒ご検討いただけますよう、お願い申し上げます。

記

- 1 行事等の名称 「Network Security Forum 2022 (NSF2022)」
- 2 開催日 2022年3月8日(火)、3月9日(水)、3月10日(木)
- 3 後援の名義使用に際しまして、費用のご負担はございません。
- 4 開催趣旨及び後援申請理由

新型コロナとの並走を余儀なくされ、人との接し方が徐々に変わりながらも、社会活動を維持することが求められる時代です。そのような中でIT化社会の有効性が認知され、ITの活用により経済発展と社会的課題の解決を両立させるデジタル社会「Society5.0」への社会変革が求められています。国もDX(デジタルトランスフォーメーション)化を加速することを掲げ、デジタル庁を設立しました。DX化された社会環境において、その社会の安定性と信頼性を保証し、DXをスムーズに社会に浸透させるためには情報セキュリティは大変重要な役割を担うのではないかと考えます。

情報セキュリティの普及と拡大のために開催するイベントのため、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム様のご後援名義をいただくことにより、より一層有意義なイベントとしたいと存じます。

- 5 後援名義の使用方法

当日の講演タイトルスライドに掲載、告知Webページ、開催案内などのセミナー関連メールで後援名義を掲載いたします。

- 6 イベント詳細は以下シンポジウムサイトで公開しております。

<https://www.jnsa.org/seminar/nsf/2022/index.html>

以上

Network Security Forum 2022

【第1日目】2022. 3. 8 (火) 13:00-17:00
【第2日目】2022. 3. 9 (水) 13:00-17:00
【第3日目】2022. 3. 10 (木) 13:00-17:00

主催：特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会

開催概要

プログラム

NSF2022トップ > 開催概要

開催概要

NSF2022

新型コロナとの並走を余儀なくされ、人との接し方が徐々に変わりながらも、社会活動を維持することが求められる時代です。そのような中でIT化社会の有効性が認知され、ITの活用により経済発展と社会的課題の解決を両立させるデジタル社会「Society5.0」への社会変革が求められています。国もDX（デジタルトランスフォーメーション）化を加速することを掲げ、デジタル庁を設立しました。DX化された社会環境において、その社会の安定性と信頼性を保証し、DXをスムーズに社会に浸透させるためには情報セキュリティは大変重要な役割を担うのではないかと考えます。

本シンポジウムはDXを推進するとともに、DX化された社会において、企業や組織はサイバーセキュリティの課題解決のためにどのような役割・責任を担うべきかをテーマとして開催します。

本シンポジウムは2022年3月8日火曜日から10日木曜日の三日間開催します。

第一日目は「セキュリティ強化のための人材育成と体制構築」をテーマに、「JAXAはやぶさ2プロジェクト」プロジェクトマネージャー津田 雄一氏を講師にお招きし、チーム作りについての講演をいただくほか、JNSAの活動の中から、若手人材の発掘・育成、人材のスキル可視化・流動化、セキュリティ対応組織の構築・強化に関する講演をいたします。あわせて、毎年開催しているJNSA賞の表彰式を執り行います。

第二日目は「官のデジタル化とセキュリティ対策」をテーマに、デジタル庁からデジタル庁の施策とセキュリティ対策についての講演をいただくほか、「官のデジタル化」「サイバーセキュリティの標準化」に関するパネルディスカッションを行います。

第三日目は「セキュリティの最新動向」をテーマに、パンデミック下にある現在の社会状況のような災害時の個人情報保護とサイバー犯罪の標的になったときの対策について取り上げます。また、最新のセキュリティ企業の取り組みについても紹介していきます。

※本イベントは、CPEポイント（CAISとCISSP）申請対象イベントです。

昨年度NSF2021の概要はこちら

名 称	Network Security Forum 2022 (NSF2022) ～DX化された社会において、企業や組織はサイバーセキュリティの課題解決のためにどのような役割・責任を担うべきか～
開催日	(第1日目) 2022年3月8日 (火) 13:00～17:00 (第2日目) 2022年3月9日 (水) 13:00～17:00 (第3日目) 2022年3月10日 (木) 12:55～17:05
開催方法	オンライン (Zoomウェビナー)
主 催	NPO日本ネットワークセキュリティ協会
後 援	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
定 員	500名
参加条件	情報セキュリティに興味のある方どなたでも無料でご参加いただけます。

令和4年度 筑波大学リスク・レジリエンス工学位プログラム 協働大学院教員一覧

整理 番号	ふりがな 氏 名	所属先	職名	筑波大学職名 (任用年月日)	大 学 院 担 当		
					新規継続 の別	研究指導 授業担当の別	担当科目（単位数）
1	しまおか まさき 島岡 政基	セコム株式会社 IS研究所	主任研究員	准教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	サイバーレジリエンス演習（1.0）ほか
2	さなみ しょう 佐波 晶	大日本印刷株式会社 メディカルヘルスケア本部 第2ユニット技術開発第2部 第2グループ	グループリーダー	准教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	リスク・レジリエンス工学概論（1.0）ほか
3	やまもと ひろみ 山本 博巳	一般財団法人 電力中央研究所 グリッドイノベーション研究本部 ENIC研究部門	上席研究員	教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論（2.0）ほか
4	あべ げんや 安部 原也	一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部	主任研究員	教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	ヒューマンファクター特論（1.0）ほか
5	うちだ のぶゆき 内田 信行	一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部	副部長	教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	ヒューマンファクター特論（1.0）ほか
6	うすだ ゆういちろう 臼田 裕一郎	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 防災情報研究部門	部門長・研究統括 ※総合防災情報センター長・国家レジリエンス研究推進センター研究統括を兼務	教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論（2.0）ほか
7	さかい なおき 酒井 直樹	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 水・土砂防災研究部門	総括主任研究員 ※先端的研究施設利用センター 副センター長を兼務	教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論（2.0）ほか
8	ふじわら ひろゆき 藤原 広行	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門	部門長 総括主任研究員	教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	災害リスク・レジリエンス論（2.0）ほか
9	かとう かずひこ 加藤 和彦	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所 再生可能エネルギー 研究センター 太陽光システムチーム	主任研究員	教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論（2.0）ほか
10	たはら きよたか 田原 聖隆	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門 IDEAラボ	ラボ長	教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論（2.0）ほか
11	さとう としひさ 佐藤 稔久	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 ヒューマンモビリティ研究センター 人間行動研究チーム	研究チーム長	准教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究I（2.0）ほか
12	ずし やすゆき 頭士 泰之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 安全科学研究部門	主任研究員	准教授 (協働大学院) (令和4年3月1日)	新規	研究指導	環境・エネルギー・安全工学概論（2.0）ほか
13	おかべ こうへい 岡部 康平	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ	主任研究員	准教授 (協働大学院) (令和2年4月1日)	継続	研究指導	リスク・レジリエンス工学修士特別研究I（2.0）ほか

令和4年度 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム 非常勤講師一覧（レジリエンス研究教育推進コンソーシアム参画機関）

（令和4年3月7日現在）

整理 番号	ふりがな 氏 名	所属先	職名	筑波大学職名 （任命日）	大学院担当	
					新規 継続 の別	担当科目（単位数）
1	あまり やすふみ 甘利 康文	セコム株式会社 IS研究所 リスクマネジメントグループ	グループリーダー	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	セキュリティ論考特論（1.0）
2	やぎゅう ともひこ 柳生 智彦	日本電気株式会社 セキュアシステム研究所 セキュアOAM-TG	主任研究員	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	リスク・レジリエンス工学概論（1.0）
3	アルザメリ フサム ムスリム ハントゥーシュ ALZAMILI HUSAM MUSLIM HANTOOSH	一般財団法人 日本自動車研究所 Autonomous Vehicle Research	Researcher	非常勤講師 （令和4年4月1日）	新規	ヒューマンファクター特論（1.0）
4	あおやま ひさえ 青山 久枝	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航空交通管理領域	研究員	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	リスク・レジリエンス工学概論（1.0）
5	ふくしま さちこ 福島 幸子	国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 航空交通管理領域	領域長	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	リスク・レジリエンス工学概論（1.0）
7	あおい しん 青井 真	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 地震津波火山ネットワークセンター	センター長	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論（2.0）
8	いいつか さとし 飯塚 聡	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 水・土砂防災研究部門	総括主任研究員	非常勤講師 （令和4年4月1日）	新規	災害リスク・レジリエンス論（2.0）
9	ふじた えいすけ 藤田 英輔	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 火山防災研究部門	総括主任研究員	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論（2.0）
10	まえた たかひろ 前田 宜浩	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 マルチハザードリスク評価研究部門	主任研究員	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論（2.0）
11	やまぐち さとる 山口 悟	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 雪氷防災研究部門	総括主任研究員	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	災害リスク・レジリエンス論（2.0）
12	うたがわ まなぶ 歌川 学	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 安全科学研究部門 持続可能システム評価研究グループ	主任研究員	非常勤講師 （令和4年4月1日）	継続	環境・エネルギー・安全工学概論（2.0）

令和4年度 リスク・レジリエンス工学学位プログラム 開設科目一覧 （令和4年3月現在）
リスク・レジリエンス工学学位プログラム（博士前期課程）

【理工情報生命学院共通専門基盤科目】

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
0AH0204	リスク・レジリエンス工学概論	1	1.0	1	春AB	月3		青山 久枝, 福島幸子, 柳生 智彦, 三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学の対象とする範疇は環境・エネルギー、都市防災減災、情報セキュリティをはじめとして多岐に亘る。また、それらを支える基礎理論も視野に入れなければならない。そのため、リスク・レジリエンス工学に係る専門分野を修得するためには自分自身の専門のリスク・レジリエンス工学における位置付けを明確にする必要がある。そのため、本授業科目では、リスク・レジリエンス工学の基本的概念、リスクとレジリエンスの定義、様々な分野におけるリスク・レジリエンスを実現させるための問題点と課題・解決手法について、実践的な実例を取り上げながら講述し、分野ごとの多様性と差違を理解する。本授業科目とリスク・レジリエンス工学基礎とでリスク・レジリエンス工学の俯瞰的な視野を涵養する。	オンライン(オンデマンド型)

★原子力規制人材育成事業教育課程授業科目

【研究群共通科目】リスク・レジリエンス工学関連科目(専門基礎科目)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OAL0300	ソフトコンピューティング基礎論	4	2.0	1・2	春AB	水3, 4	総合B0110	宮本 定明, 遠藤 靖典	ソフトコンピューティングの諸技法は、人間の関与する場面の多い状況、特にリスク解析においてその威力を発揮する。また、ソフトコンピューティングの理論修得を通じて、従来のハードコンピューティングの諸技法に対する認識を深めることもできる。そこで、本講義では、ソフトコンピューティングのうちで特に重要と思われる、不確実性理論、様相論理、ファジィ理論、ベイズ推定、期待効用理論、プロスペクト理論、ファジィ理論を中心に論じる。抽象的な理論のみならず、現実問題への応用などにも言及する。	01CF120と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OAL0301	データマイニング	1	2.0	1・2	秋AB	火5, 6	総合B0110	イリチュ 美佳	データマイニングの理論に基づき、知識発見に基づくデータ解析技法を統計的学習理論と機械学習理論の両側面から論じる。データ解析の分野で扱う先端的方法論を、数学的根拠に基づいて理解できるようにし、社会で実際に利用されるデータ解析技法を基にして、データマイニングの技法の応用を身に付けることを目標とする。具体的には、データに内在する不確実性の表現方法、探索的データ解析手法、データ解析の最近の問題とそれに対応する先端的方法等について、論じる。	01CF109と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OAL0302	暗号技術特論	1	2.0	1・2	春AB	月1, 2	総合B0110	西出 隆志	情報セキュリティ確立のための基盤技術の一つである暗号技術について学修する。代数学、数論などの基礎事項について知識を修得した後、現代暗号理論を中心に、情報セキュリティシステムの代表的な基本構成要素(公開鍵暗号方式、鍵配送方式、認証方式など)が動作する理論的な根拠について理解を深める。以下の内容に基づき講義する。 1) 暗号基礎数学(モジュロ演算, オイラーの定理, 中国剰余定理など) 2) 公開鍵暗号(RSA暗号、ElGamal暗号, Paillier暗号, 電子署名など) 3) 安全性証明(モデル化と計算量的仮定) 4) 暗号プロトコル(秘密分散、準同型暗号、ゼロ知識証明、秘密計算など)	オンライン(オンデマンド型) 01CF212, 01CH219と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OAL0303	現代情報理論	1	2.0	1・2	春AB	火3, 4	3B303	片岸 一起	本講義では、染谷・シャノンの標本化定理を取り上げ、ディラックのデルタ関数をベースにした超関数論を用いることにより、アナログ信号とディジタル信号の同型性を保持しつつ、その定理を完全に証明する。これにより、染谷・シャノンの標本化定理においてこれまで明確に議論されていない様々な問題とそれらの解についての見通しが良くなることを示す。そして、染谷・シャノンの標本化定理の一般化であるフルーエンシ理論について概説する。	01CF202, 01CH102と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OAL0304	数理モデル解析特論	1	2.0	1・2	春AB	火5, 6	総合B812	高安 亮紀	非線形数理モデルの数値計算によるリスク検証手法を紹介する。また数値計算に潜むリスクを制御するための精度保証付き数値計算理論も紹介する。現象の数理モデルによる表現と計算機シミュレーションによる再現は、現在広く使われている現象の解析手法であるが、数理モデルによる現象の再現性を検証できなければ、現象の解析に思ってもよらないリスクが内在することになる。本講義では数理モデルの信頼性検証方法として、数値計算を利用したシミュレーションの手法について概説し、特に数値計算の誤差に注目する。そして数値計算で生じるすべての誤差を考慮して正しい結果を導く数値計算法である「精度保証付き数値計算」について講述する。	01CF407と同一。 オンライン(オンデマンド型)
OAL0305	数理環境工学特論	1	2.0	1・2	秋AB	金3, 4	総合B701-1	羽田野 祐子	環境中を移動する物質を長期にわたり追跡する場合、放射性物質はたいへん役に立つ。放射性物質は微量でも検出可能であり、放出場所はピンポイントかつ短時間、また数十年にわたるモニタリングデータが多く存在するため、放射性ではない汚染物質の移動のモデルとして使うことができる。本講義ではこのような点に立脚し、環境動態モデリングについて学習する。あわせて、放射線計測の基礎知識を身につける。	01CF410と同一。 オンライン(オンデマンド型)。対面

★原子力規制人材育成事業教育課程授業科目

【研究群共通科目】リスク・レジリエンス工学関連科目(専門科目)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
QAL5300	エネルギー・環境モデリング演習	2	2.0	1・2	秋AB	水1,2	総合B112-1	鈴木 研悟	現実のエネルギー・環境システムが抱える問題を抽象化した定量的モデルを構築する技法を身に付ける。構築されたモデルを計算機上に実装する方法論を学ぶ。実装したモデルを用いたシミュレーションを通じて、エネルギー・環境システムに関連するリスク、およびそれらへの対策について総合的に議論する方法を学ぶ。システム最適化モデルとゲーミングモデルの演習を通じて、エネルギー・環境問題に限らず、巨大で複雑な社会システムの将来をデザインする視点を養うことを目指す。 [受講生の到達レベル] 1) エネルギー・環境システムを最適化モデルとして計算機上に実装できる 2) 実社会の問題をシステム最適化モデルを用いて実社会の問題を分析・考察できる 3) ゲーミングモデルを用いて実社会の問題を分析・考察できる	01CF411と同一。 オンライン(オンデマンド型)、オンライン(同時双方向型)、対面
QAL5301	サイバーリスク特論	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中		大久保 隆夫, 西出 隆志, 面 和成	一般的なソフトウェアの開発手法、および、Webやモバイルのソフトウェアに潜在する典型的な脆弱性を含む問題についての理解を深める。また、脆弱性を作りこまないためのセキュアなソフトウェア開発方法について、講義および実習を通して技術を深める。情報セキュリティ対策は学際融合技術であるが、それらを戦略的情報セキュリティの観点から理解することを狙いとする。 [受講生の到達レベル] 1) ソフトウェアに潜在する典型的な脆弱性について理解する。 2) 従来のソフトウェア開発手法におけるセキュリティ実現の困難さについて理解する。 3) 脆弱性を作りこまないための最新のセキュアなソフトウェア開発技術について修得する。	01CF206, 01CH750と同一。 オンライン(同時双方向型)
QAL5302	サイバーレジリエンス演習	2	1.0	1・2	春A	月4,5	総合B0110	島岡 政基, 面 和成, 片岸 一起, 西出 隆志	サイバーレジリエンスを実現するためのより進んだ手法について暗号、ネットワーク、ソフトウェアなどの観点から輪講・演習形式を通じて学修し理解を深める。 授業内容は次のとおり。 1) サイバー空間を含む社会の安全と信頼に関する講義 2) 上記に関連する文献調査・発表と討論 3) 他履修生の発表の聴講と討論	01CF213と同一。 オンライン(オンデマンド型)
QAL5303	セキュリティ論考特論	1	1.0	1・2	春C	集中	総合B112-1	甘利 康文, 西出 隆志	本講では、リスク、レジリエンス等の研究領域において、どの分野にも共通する「基本的な考え方」に関する示唆を与える。その目的のために、「セキュリティ」、「安全」、「安心」、そしてこれらを脅かす「リスク」などを対象に、実務家としての観点、概念的観点から論考する。また、その基本的考え方に関係する「オペレーション」、「損失」、「有益」、「人と人との意思伝達」、「技術」、「認識」、「存在」などの概念について論じるほか、「サービス」、「社会」、「世間」などのリスク・レジリエンス研究の成果が適用される先についても、その何たるかについて検討する。さらに、物理的な実体をもたない形而上の存在である上記の対象を、体系的に扱うための「科学」の考え方、さらにその科学の知見を、現に世の中で行われている人々の営みに活かすための「工学」のあり方についても考える。	01CF214と同一。 オンライン(同時双方向型)、対面
QAL5304	ネットワークセキュリティ特論	1	2.0	1・2	夏季休業中	集中		寺田 真敏, 西出 隆志	インターネットの常時接続の普及に伴い、マルウェアの流布を含むセキュリティ侵害活動は活発化しており、その被害も広範囲かつ多岐に渡るようになってきている。本講義では、セキュアな情報システムを構成するにあたって念頭に置くべき、基本的なネットワークセキュリティを修得することを目的とする。以下の内容に基づき講義する。 1) ネットワークアーキテクチャとセキュリティ: TCP/IP, ネットワークサービス 2) ネットワークアプリケーションとセキュリティ: DNS とセキュリティ, 電子メールとセキュリティ, Web アプリケーションとセキュリティ 3) 不正アクセス活動の現状と対策	オンラインで授業を実施。「ネットワークセキュリティ特論II」との重複履修不可。 01CF211と同一。 オンライン(同時双方向型)

QAL5305	ヒューマンファクター 演習	2	1.0	1・2	秋AB	木2	総合 B112-1	齊藤 裕一, 伊藤 誠	自動化システムへの過信と不信、緊急時における リスク回避と決定支援、リスク環境下での人間・ 機械協調と支援インタフェースの設計・評価など ヒューマンマシンインタラクションにおける ヒューマンファクターの問題、ならびにコミュニ ケーションや安全文化などチーム・組織における 人間の活動におけるヒューマンファクターの諸問 題について、その問題の記述のための諸概念・モ デルや対策の方法論について具体的な事例分析を 行って理解を深める。	01CF117と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)。オンライン (同時双方向型)
QAL5306	ヒューマンファクター 特論	4	1.0	1・2	夏季休業 中	集中	学外	内田 信行, 安部 原也, 伊藤 誠	リスク・レジリエンスに関するヒューマンファク ターの諸問題について、基礎的概念・理論を説明 するとともに、具体的解決の方法について、自動 車等の分野における最新の研究動向を含めながら 事例を解説する。とくに、視覚などの人の知覚・ 認知の機能に焦点をあて、基本的なメカニズムと 自動車の運転などに与える影響や、そのヒューマ ンファクターを考慮に入れた安全対策の立案法や その効果評価について、演習を交えて学ぶ。	01CF119と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)。オンライン (同時双方向型)
QAL5307	プロセスシステムリス ク特論	1	2.0	1・2	春AB	金3, 4	総合 B108	岡島 敬一	エネルギープラント・化学プラントのプロセスシ ステムの概要と、関連するプラント事故・故障事 例を体系的に紹介し、望まれるリスク管理の具体 的な対策について論じる。また、各自によるプラ ント大規模事故事例についての調査・発表を通し 、議論を進める。事故状況、発生現象と技術的 要因・対策などの検討・議論を通し、事故体系 化、プロセスの危険性解析法などを学ぶ。エネル ギープラント・化学プラントのプロセスシステム の概要ならびに関連するリスクおよび事故事例を 理解し、リスク管理について理解を深める。	少人数でのディスカッ ション形式を取り入れ るため、受入れ上限数 を14名とする。【受入 上限数14名】 01CF412と同一。 オンライン(同時双方 向型)。対面
QAL5308	リスク・レジリエンス 工学修士特別講義(セ キュリティ)	1	1.0	1・2	秋B	集中		満保 雅浩, 西出 隆志	本授業科目では、セキュリティにおけるリスク・ レジリエンスに関する現状を概観し、最近の重要 課題について講述する。暗号応用技術や関連する セキュリティ技術によって社会にもたらされる安 全性や真正性保証、プライバシー保護などについ て説明できるようになることを狙いとする。	オンライン(同時双方 向型)
QAL5309	リスク・レジリエンス 工学修士特別講義(都市 防災・リスク情報論)	1	1.0	1・2	春C	集中	総合 B0110	廣井 悠, 梅本 通 孝	本授業科目では、都市防災・リスク情報における リスク・レジリエンスに関する現状を概観し、最 近の重要課題について講述する。都市防災分野や 災害情報分野における問題解決能力を養うことを 狙いとする。 [受講生の到達レベル] 都市の安全・安心に関する基本的な内容と今後の 展望を理解する。	オンライン(同時双方 向型)。対面
QAL5310	リスクコミュニケーション	1	2.0	1・2	秋AB	木3, 4	総合 B112-1	谷口 綾子, 梅本 通孝	リスクコミュニケーションの本質と必要性を理解 するとともに、心理学・社会心理学における諸理 論や実務への適用事例などから、実際のコミュニ ケーションの方法や留意点を理解する。具体的に は、リスクの認知と受容、信頼の重要性、CAUSE モデル、社会的ジレンマ等、理論を学ぶととも に、土砂災害避難行動や交通渋滞緩和、環境配慮 行動に向けたリスクコミュニケーションの事例を 紹介する。また、関連文献の輪読やリスクコミュ ニケーション施設の現地見学を行う。その上で、 受講生一人一人がテーマを選定し、講義や輪読、 現地見学で得られた知見を応用したリスクコミュ ニケーション・ツールの提案を課す。	01CF309と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)。オンライン (同時双方向型)
QAL5311	レジリエンス社会へ向 けての事業継続管理	1	2.0	1・2	秋AB 秋C	応談	総合 B112-1	桐原 憲昭, 見目 久美子, 真城 源 学, 谷口 綾子	事業継続管理に関する基本的知識体系(プロフェ ッショナル・プラクティス)10項目(以下専門業務と いう)に基づいて、インシデント対応(緊急対応) や事業継続計画策定の主要なコンポーネントを学 修し、ツール、そして実用的な経験を提供する。 教材は事業継続プログラムの開始とプロジェクト 管理、リスクや事業影響分析、脆弱性の分析、被 害防止、リスク緩和のプロセス等をカバーし、更 に組織が正常に事業を行うことを妨げる事象か ら、復旧しサバイバルする為の“備え”が出来、 支援が出来る演習・テストと計画の維持管理、そ の手順を開発して導入するまでをカバーする。	日程が決まり次第、 TWINS掲示板にて周知 予定。 詳細後日周知。オンラ イン(オンデマンド 型)。オンライン(同時 双方向型)

OAL5312	レジリエント都市計画 演習	2	2.0	1・2	秋AB	火3,4	総合 B701-1	木下 陽平, 鈴木 勉, 谷口 綾子, 梅 本 通孝	自然災害・人為災害による都市域の被害を軽減する方策について、計画論を理解するとともに、具体的計画課題を対象に、地理情報システムや各種統計ソフトを用いた定量的分析および政策評価の手法を修得する。具体的には、教員が設定する「都市リスクに関するデータと社会的課題」を各学生に割り当て、学生は担当週までに分析手法を自ら学び、チュートリアル形式で解説する資料を作成し、当該週に他の学生に教示する。聴講する学生は実際にチュートリアルで作業することで、開設する学生は「他者に教える」ことでより深いアクティブ・ラーニングとなることを意図している。分析手法としては、SPSSやMS Excel等による統計解析、GIS、MS Access等によるデータ分析を予定している。	01CF310と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)、オンライン (同時双方向型)
OAL5313	環境・エネルギー・安全工学概論	1	2.0	1・2	春AB	木5,6	総合 B0110	加藤 和彦, 田原 聖隆, 山本 博巳, 歌川 学, 頭士 泰 之, 岡島 敬一	エネルギー・環境問題を取り巻く状況はめまぐるしく変わってきている。新たな変化にいかに対応してこの問題に取り組めばよいか、エネルギーの安定供給、経済効率性の向上、環境への適合、安全性、の「3E+S」の視点から、この講義で考えていく。	01CF413と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)
OAL5314	金融リスク解析	1	2.0	1・2	秋AB	金5,6	総合 B112-1	三崎 広海	投資や保険を含む広い意味での金融に関するリスクを、定量的に計測、評価、管理するための手法について、その概念や数理的技法の基礎を解説する。時系列データのモデル化のための手法(ARMAモデル、GARCHモデル、他)や、定量的リスク管理に関するいくつかのトピック(VaR、コピュラ、信用リスク、極値理論、他)を講義する。 [受講生の到達レベル] 1) 定量的リスク管理の概念と手法を理解する 2) 金融市場の制度や規制に関する議論を概ね理解できるようになる 3) 必要に応じて自らデータ分析を行うことができる	01CF110, 01CN225と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)
OAL5315	災害リスク・レジリエ ンス論	1	2.0	1・2	春AB	金5,6	総合 B108	藤原 広行, 酒井 直樹, 臼田 裕一 郎, 青井 真, 前田 宜浩, 藤田 英輔, 山口 悟, 三隅 良 平, 木下 陽平	各種自然災害を網羅する形で、個別の災害リスク評価からレジリエンス向上のための災害対応技術までを俯瞰した講義を行う。具体的には、概論、地震・津波災害(リスク評価、対策技術、観測技術、シミュレーション技術)、火山災害・地盤災害(リスク評価、対策技術)、風水害・雪氷災害(リスク評価、対策技術、情報共有・利活用技術)について理解を深めた上で、レジリエンス向上のための総合戦略について、平時や災害時の実践事例を交え学修する。	01CF311と同一。 オンライン(同時双方向型)、対面
OAL5316	サイバーセキュリティ 特論	1	2.0	1・2	秋ABC	集中	総合 B112-1		数理の情報科学への応用という観点で、ネットワークセキュリティ及び暗号技術など、サイバー空間において情報セキュリティが応用される分野に必要な技術について幅広く学修する。特に、サイバーセキュリティの基礎技術・関連技術を学び、その応用力を身につけることをねらいとする。合わせてそれが実際にどのように世の中に役立っているかを理解することを目標とする。さらに、1. ネットワークシステムに潜む脅威と脆弱性を理解する。2. ネットワークセキュリティ及び暗号技術の基礎を習得する。3. 情報セキュリティの応用技術を習得する、を受講生の到達レベルとする。	秋学期開講予定。日程 が決まり次第、TWINS 掲示板にて周知予定。 01CF210と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)、対面
OAL5317	都市リスクマネジメント 論	1	2.0	1・2	春AB	金1,2	総合 B112-1	梅本 通孝, 木下 陽平	都市域における各種自然災害及び人為災害に関するリスクマネジメントについて論じる。まず、ハード・ソフト両面のパルネラビリティの観点から、都市災害の意味と特性、各種災害による直接的な被害と波及的な影響の諸様相等について解説する。その上で、リスクの同定、評価、処理などからなるリスクマネジメントのプロセスを踏まえ、実在の都市における災害リスクを対象として、受講者によるデータ分析・考察、適切な防災・減災対策案の検討とその発表を行う。これらを通じて都市災害のリスクマネジメントのあり方を議論する。	01CF308, 01CN205と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)
OAL5318	認知的インタフェース 論	1	2.0	1・2	秋AB	月4,5	総合 B112-1	古川 宏	レジリエンスの高い状況適応的対応には、状況・環境における制約と要件の的確な理解が不可欠となる。複雑な社会・技術システムにおけるユーザの情報提供環境を整備する方策として、認知的作業解析に基づくヒューマンインタフェース設計法について述べる。作業の要件を明らかにする認知的解析法、状況理解に適した情報の決定法、情報表示フォームの設計法などの実用的知識について取り上げる。	01CF118と同一。 オンライン(オンデマ ンド型)、オンライン (同時双方向型)

QAL5319	リスク・レジリエンス工学修士特別講義(情報知能災害リスクマネジメント)	1	1.0	1・2	秋B	集中		Li Wei-Sen, LIU Yi-Chung, 臼田 裕一郎, 梅本 通孝	Disaster Prevention Research and Efforts in NCDR. The main concepts proposed by NCDR are aimed at how to implement scientific outputs at level of policy formation, emergency operation, information integration and risk communication. With practical case studies, it will offer students a chance to think the way to develop effective and efficiency disaster risk management.	今後の状況により、オンライン授業となる可能性あり。 01CF910と同一。 英語で授業。 オンライン(同時双方向型)。対面
QAL5321	システム信頼性解析演習	2	1.0	1・2	春AB	水5	総合B811	秋元 祐太郎, 岡島 敬一	原子力発電などのエネルギーシステムを例に、実際の製品評価に用いられる信頼性ソリューションツールを用いた信頼性解析方法を身につける。また、実際の原子力発電所をモデルにしたシミュレーターを用いて、原子力発電プラントプロセスを理解する。本演習によりエネルギーシステムのみならず、製品構成、プロセスを理解したシステム信頼性解析手法を習得することを目指す。	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)
QAL5322	原子力安全特論	1	1.0	1・2	秋C	集中		岡島 敬一, 羽田野 祐子	沸騰水型炉など各種原子炉プラントの安全上の特徴ならびに原子力安全に関する基本的な考え方について説明するとともに、シビアアクシデントについて講述し、原子力規制について解説する。	オンライン(同時双方向型)
QAL5323	メディアリスクコミュニケーション概論	1	2.0	1・2	秋AB	木5, 6	総合B112-1	片桐 暁, 谷口 綾子	メディアとは「日常世界の中で意味を媒介するもの一般」を意味している。本講義では様々なメディアの現状と課題を含む基礎理論を概観するとともに、事例となる映像・写真・音楽・テキスト等を視聴・考察する。これにより、広告(印刷物や映像)、映画、新聞、雑誌、ウェブサイト、SNS等、私たちを取り巻く多様なコンテンツやメディア体験を分析し、それを批判的に読解して自ら考える力を養う。	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)

★原子力規制人材育成事業教育課程授業科目

【学位プログラム科目群】専門基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OALC000	リスク・レジリエンス工学基礎	1	1.0	1	秋AB	月3	総合B112-1	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎, 掛谷 英紀	リスク・レジリエンス工学の対象とする範疇は環境・エネルギー、都市防災減災、情報セキュリティをはじめとして多岐に亘る。また、それらを支える基礎理論も視野に入れなければならない。そのため、リスク・レジリエンス工学に係る専門分野を修得するためには自分自身の専門のリスク・レジリエンス工学における位置付けを明確にする必要がある。そのため、本授業科目では、リスク・レジリエンス工学の基本的概念、リスクとレジリエンスの定義並びに数学的定式化、リスク・レジリエンス工学における理論的基礎と発展、理論の応用と具体的事例など、理論的側面に重点を置きつつ、様々な側面をとりあげて概説する。本授業科目とリスク・レジリエンス工学概論とでリスク・レジリエンス工学の俯瞰的な視野を涵養する。	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)

【学位プログラム科目群】専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OALC500	リスク・レジリエンス工学グループPBL演習	2	3.0	1	通年	随時		三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎, 掛谷 英紀	3-4 名の学生グループ毎にリスク・レジリエンス工学に関する課題(下記の(研究指導)欄に示される各教員の研究指導する専門領域や研究テーマを中心とする)を設定し、当該課題を担当しているアドヴァイザー教員、TA、あるいはアドヴァイザー学生のもとで、グループとして問題の把握、分析、考察を行い、結果をまとめる。	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)。対面
OALC501	リスク・レジリエンス工学修士特別演習I	2	2.0	1	通年	随時	総合B0110	岡島 敬一, 三崎 広海, 加藤 和彦, 高安 亮紀, 内田 信行, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 佐藤 稔久, 安部 原也, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学に関する各々の修士レベル前半の研究についてプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション技術の取得と向上を図る。また、他の学生や研究者の発表を聴講し、質疑にかかるコミュニケーション能力の向上を図る。	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)。対面

OALC502	リスク・レジリエンス工学修士特別演習II	2	2.0	2	通年	随時	総合B0110	岡島 敬一, 三崎 広海, 加藤 和彦, 高安 亮紀, 内田 信行, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 佐藤 稔久, 安部 原也, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学に関する各々の修士レベル後半の研究についてプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション技術の取得と向上を図る。また、他の学生や研究者の発表を聴講し、質疑にかかるコミュニケーション能力の向上を図る。	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)。対面
OALC503	リスク・レジリエンス工学修士特別研究I	3	2.0	1	通年	随時		岡島 敬一, 三崎 広海, 加藤 和彦, 高安 亮紀, 内田 信行, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 佐藤 稔久, 安部 原也, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学の修士レベル前半の各研究テーマに関する基礎的なものの見方・知識・スキルを教授するとともに、そのテーマの研究指導を行う。	オンライン(同時双方向型)。対面
OALC504	リスク・レジリエンス工学修士特定課題研究	3	3.0	2	通年	随時		岡島 敬一, 三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎, 加藤 和彦, 内田 信行, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 佐藤 稔久, 安部 原也, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学における修士レベルの特定の課題に関する基礎的なものの見方・知識・スキルを教授するとともに、その特定課題についての研究指導を行う。	オンライン(同時双方向型)。対面

OALC505	リスク・レジリエンス工学修士特別研究II	3	3.0	2	通年	随時	岡島 敬一, 三崎 広海, 加藤 和彦, 高安 亮紀, 内田 信行, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 佐藤 稔久, 安部 原也, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学の修士レベル後半の各研究テーマに関する基礎的なものの見方・知識・スキルを教授するとともに、そのテーマの研究指導を行う。	オンライン(同時双方向型)。対面
OALC506	リスク・レジリエンス工学輪講I	2	1.0	1	通年	随時	岡島 敬一, 三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎, 加藤 和彦, 内田 信行, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 佐藤 稔久, 安部 原也, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学の各研究テーマに関する研究動向を把握するために、外国語文献をいくつか選定して輪講を行う。また、これを通じて、国際的通用性を高めるための語学力、ならびに専門知識の修得を図る。	オンライン(同時双方向型)。対面
OALC507	リスク・レジリエンス工学輪講II	2	1.0	2	通年	随時	岡島 敬一, 三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎, 加藤 和彦, 内田 信行, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 佐藤 稔久, 安部 原也, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学の各研究テーマに関する研究動向を把握するために、外国語文献をいくつか選定して輪講を行う。また、これを通じて、国際的通用性を高めるための語学力、ならびに専門知識の修得を図る。	オンライン(同時双方向型)。対面

QALC508	リスク・レジリエンス工学修士インターンシップA	3	1.0	1・2	通年	随時	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎	リスク・レジリエンス工学に関する企業、官公庁の研究所、非営利団体などの現場における短期・中期にわたる就労体験を通じて自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	オンライン(オンデマンド型)
QALC509	リスク・レジリエンス工学修士インターンシップB	3	2.0	1・2	通年	随時	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 片岸 一起, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 庄司 学, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎	リスク・レジリエンス工学に関する企業、官公庁の研究所、非営利団体などの現場における長期にわたる就労体験を通じて自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	オンライン(オンデマンド型)



★原子力規制人材育成事業教育課程授業科目

リスク・レジリエンス工学学位プログラム（博士後期課程）

リスク・レジリエンス工学関連科目（専門科目）

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBLC500	リスク・レジリエンス工学博士特別講義（セキュリティ）	1	1.0	1 - 3	秋B	集中		満保 雅浩, 西出 隆志	本授業科目では、セキュリティにおけるリスク・レジリエンスに関する現状を概観し、最近の重要課題について講述する。暗号応用技術や関連するセキュリティ技術によって社会にもたらされる安全性や真正性保証、プライバシー保護などについて説明できるようになることを狙いとする。	オンライン（同時双方向型）
OBLC501	リスク・レジリエンス工学博士特別講義（都市防災・リスク情報論）	1	1.0	1 - 3	春C	集中	総合 B0110	廣井 悠, 梅本 通孝	本授業科目では、都市防災・リスク情報におけるリスク・レジリエンスに関する現状を概観し、最近の重要課題について講述する。都市防災分野や災害情報分野における問題解決能力を養うことを狙いとする。 [受講生の到達レベル] 都市の安全・安心に関する基本的な内容と今後の展望を理解する。	オンライン（同時双方向型）。対面
OBLC502	リスク・レジリエンス工学博士特別講義（ビジネスリスク）	1	1.0	1 - 3	夏季休業中	集中		上田 圭一, 小野 吉昭, 小早川 直樹, 中川 慧, 細尾 英雄, 倉橋 節也, 津田 和彦, 吉田 健一, 木野 泰伸	有職社会人であり博士の学位を取得した人を招き、仕事と研究を両立する利点とリスクを、具体的な事例を講述いただくと共に、ディスカッションを通じて、レジリエンスの立場から、その対策などを検討する。	授業実施の方法については、決定次第manabaにて周知予定。 02CF907と同時実施。 オンライン（同時双方向型）
OBLC503	リスク・レジリエンス工学博士特別演習	2	2.0	1 - 3	通年	随時	総合 B0110	岡島 敬一, 三崎 広海, 加藤 和彦, 高安 亮紀, 内田 信行, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 佐藤 稔久, 安部 原也, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学に関する博士レベルの各々の研究についてプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション技術の取得と向上を図る。また、他の学生や研究者の発表を聴講し、質疑にかかるコミュニケーション能力の向上を図る。	オンライン（オンデマンド型）。オンライン（同時双方向型）。対面
OBLC504	リスク・レジリエンス工学博士特別研究	3	6.0	1 - 3	通年	随時		岡島 敬一, 三崎 広海, 加藤 和彦, 高安 亮紀, 内田 信行, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 佐藤 稔久, 安部 原也, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学の博士レベルの各研究テーマに関する基礎的なものの見方・知識・スキルを教授するとともに、そのテーマの研究指導を行う。また、専門分野のレビューについて外国語によるプレゼンテーションを行わせ、国際的通用性を向上させる。	オンライン（同時双方向型）。対面

OBLC505	リスク・レジリエンス・ケーススタディ	2	1.0	1 - 3	通年	随時	岡島 敬一, 三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎, 加藤 和彦, 内田 信行, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 佐藤 稔久, 安部 原也, 佐波 晶	リスク・レジリエンスに関わるケーススタディを行うことにより、課題発見、情報・データの収集と解析、多面的評価、成果発表にいたる一連の過程を体験する。学生 自主プロジェクトとして推進する。	オンライン(同時双方向型)。対面
OBLC506	リスク・レジリエンス工学博士PBL演習	2	2.0	1 - 3	通年	随時	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎	リスク・レジリエンス工学に関するグループPBLにアドバイザーとしてコミットさせることにより、問題の設定、プロジェクトのマネジメント、成果のとりまとめ、発表までのプロセスを指導できる能力を会得させる。	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)。対面
OBLC507	リスク・レジリエンス工学博士インターンシップA	3	1.0	1 - 3	通年	随時	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎	リスク・レジリエンス工学に関する企業、官公庁の研究所、非営利団体などの現場における短期・中期にわたる就労体験を通じて自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	★ オンライン(オンデマンド型)
OBLC508	リスク・レジリエンス工学博士インターンシップB	3	2.0	1 - 3	通年	随時	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎	リスク・レジリエンス工学に関する企業、官公庁の研究所、非営利団体などの現場における長期にわたる就労体験を通じて自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	★ オンライン(オンデマンド型)

OBLC509	リスク・レジリエンス工学博士プロジェクト研究	3	2.0	1 - 3	通年	随時	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎	リスク・レジリエンス工学に関するプロジェクトを独自に提案し、調査・分析に基づいて問題の構造およびプロセスの解明とメカニズムの分析を行い、問題解決のための方策を提言する。	オンライン(同時双方向型)。対面
OBLC510	リスク・レジリエンス工学博士特別講義(情報知能災害リスクマネジメント)	1	1.0	1 - 3	秋B	集中	Li Wei-Sen, LIU Yi-Chung, 臼田 裕一郎, 梅本 通孝	Disaster Prevention Research and Efforts in NCDR. The main concepts proposed by NCDR are aimed at how to implement scientific outputs at level of policy formation, emergency operation, information integration and risk communication. With practical case studies, it will offer students a chance to think the way to develop effective and efficiency disaster risk management.	今後の状況により、オンライン授業となる可能性あり。02CF910と同一。英語で授業。オンライン(同時双方向型)。対面

★原子力規制人材育成事業教育課程授業科目

リスク・レジリエンス工学学位プログラム（博士後期課程）昼夜開講プログラム

専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBDM5005	知能情報システム	1	1.0	1 - 3	秋B	土5, 6	2F講義室6	倉橋 節也	複雑な社会や経営の問題を扱うためには、知能情報システムのモデル化が必要となる。本講義では、人工知能をベースとしたマルチエージェント技術に基づくシミュレーション&ゲーミング手法を紹介する。これはボトムアップ型のアプローチであり、ソフトウェアエージェントと人間を含むそれぞれの主体が、シブブルなゲーミング環境の下で、自律的・適応的な意思決定を通して、複雑なシステムを実験的に再現することができる。本講義ではゲーム設計を含め、グローバルワークを通して自律的に参加することで、知能情報システムのモデル化について理解する。	西暦偶数年度開講。 02CF206, 02FA247と同一。
OBDM222	プロジェクト・マネジメント論	1	1.0	1 - 3					企業は変革を成し遂げるために、各種プロジェクトを実施する。プロジェクトを確実に成功させるためには、ビジョンの明確化、計画の立案、作業の実施、状況のモニタリングとコントロールの各段階において体系化されたマネジメントプロセスを実施することが大切である。本講義では、その手法として、WBS、PERT、EVM、リスクマネジメント、品質マネジメント、見積り技法等を習得する。それらの技法は、産業分野や地域を超え標準化されたものである。	西暦奇数年度開講。 02CF207, 02FA234と同一。 2022年度開講せず。
OBDM223	システムデザイン論	1	1.0	1 - 3	春B	金7, 8	2F講義室6	木野 泰伸	世の中には、社会システム、経済システム、情報システムなど、物理的、概念的要素が集まることによって構成されるシステムが多く存在する。それらシステムは、人類によって設計される。良い設計を行うことにより、社会に貢献することができる。本講義では、モデル化技法と、システム設計を行うための技法について習得する。なお、良い設計を行うためには、ニーズ、要件を理解し、優れた概念モデルを作成する必要があるため、文章データから概念モデルを作成する技法についても合わせて習得する。	西暦偶数年度開講。 02CF208, 02FA275と同一。
OBDM224	情報検索特論	1	1.0	1 - 3					インターネットの発達などにより、アクセスできる情報は爆発的に増加している。この莫大な情報の中から、キーワード検索のみで必要な情報を探し出すことは困難になりつつある。このような背景のもと、同義語や類義語、シソーラスなどを用いた概念検索や、個人の検索履歴を用いた意図理解検索、世の中で良く検索されているキーワードを活用した予測検索など、高度な検索技術が開発されつつある。本講義では、これらの高度な検索技術について紹介すると共に、その要素技術および適用分野について紹介する。これらの事例を参考にすることで、情報検索のアルゴリズムについて理解する。	西暦奇数年度開講。 02CF201, 02FA238と同一。 2022年度開講せず。
OBDM225	知的ドキュメント管理論	1	1.0	1 - 3	春C	応談		津田 和彦	氾濫するドキュメント情報を、知識とするには「必要とする情報」を漏れなく高速に閲覧できるように管理する必要がある。ドキュメントの中にはテキスト情報だけでなく、図や表など様々な情報が記載されている。さらにドキュメントには、作成者や作成日、閲覧履歴など多くの属性情報が付与されている場合が多い。本講義では、これらの情報を総合的に捉え、目的に応じたドキュメントを漏れなく高速に検索できるように管理する手法について議論すると共に、その限界や問題点などについても考察する。これにより、ドキュメントを効果的に利用するための管理方法を習得する。	西暦偶数年度開講。 02CF202, 02FA239と同一。
OBDM227	ネットワーク特論	4	1.0	1 - 3					インターネットの発展は人工知能やデータマイニング、深層学習、強化学習などの技術と共に、新しい社会インフラとしての地位を確立した。本講義では、このような背景の中、ビッグデータやクラウドサービスなど関連の最新資料を題材に、その貢献について議論する。授業は講義形式で行う。	西暦奇数年度開講。 02FA242と同一。 2022年度開講せず。 西暦奇数年度開講
OBDM228	情報マネジメント	4	1.0	1 - 3	秋C	応談		吉田 健一	現代の情報処理技術がWWWのような新しい価値を創出しようとしている一方、迷惑メールやインターネットウイルス等のマイナス面が新たなマイナスの社会要因を作りつつある。本講義では、このような社会背景の中、問題となる各種概念および関連技術に関する資料を題材に、内容に関する議論を行う。授業は講義形式で行う。	西暦偶数年度開講。 02CF204, 02FA243と同一。

OBDM229	複雑システム論	1	1.0	1 - 3					流行現象、流通・取引関係、組織運営、伝染病など、人や組織に起因する社会のさまざまな関係は、複雑システムの視点から捉えることができる。これらを分析する手法として、社会ネットワーク分析や複雑ネットワーク分析がある。また、ネットワークモデルを利用したシミュレーション手法として、社会シミュレーションがある。本講義では、これらの理論的背景とモデリング手法を講義するとともに、実際の現象に対して分析を試みることを通して、複雑システムのモデル化の理論と手法を習得する。	西暦奇数年度開講。 02CF205、02FA246と同一。 2022年度開講せず。
OBLC502	リスク・レジリエンス工学博士特別講義(ビジネスリスク)	1	1.0	1 - 3	夏季休業中	集中		上田 圭一, 小野吉昭, 小早川 直樹, 中川 慧, 細尾英雄, 倉橋 節也, 津田 和彦, 吉田健一, 木野 泰伸	有職社会人であり博士の学位を取得した人を招き、仕事と研究を両立する利点とリスクを、具体的な事例を講述いただくと共に、ディスカッションを通じて、レジリエンスの立場から、その対策などを検討する。	授業実施の方法については、決定次第manabaにて周知予定。 02CF907と同時に実施。 オンライン(同時双方向型)
OBLC503	リスク・レジリエンス工学博士特別演習	2	2.0	1 - 3	通年	随時	総合B0110	岡島 敬一, 三崎 広海, 加藤 和彦, 高安 亮紀, 内田 信行, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 佐藤 稔久, 安部 原也, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学に関する博士レベルの各々の研究についてプレゼンテーションを行い、プレゼンテーション技術の取得と向上を図る。また、他の学生や研究者の発表を聴講し、質疑にかかるコミュニケーション能力の向上を図る。	オンライン(オンデマンド型)、オンライン(同時双方向型)、対面
OBLC504	リスク・レジリエンス工学博士特別研究	3	6.0	1 - 3	通年	随時		岡島 敬一, 三崎 広海, 加藤 和彦, 高安 亮紀, 内田 信行, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 臼田 裕一郎, 酒井 直樹, 田原 聖隆, 藤原 広行, 山本 博巳, 岡部 康平, 島岡 政基, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 佐藤 稔久, 安部 原也, 秋元 祐太郎, 佐波 晶	リスク・レジリエンス工学の博士レベルの各研究テーマに関する基礎的なものの見方・知識・スキルを教授するとともに、そのテーマの研究指導を行う。また、専門分野のレビューについて外国語によるプレゼンテーションを行わせ、国際的通用性を向上させる。	オンライン(同時双方向型)、対面

OBLC506	リスク・レジリエンス工学博士PBL演習	2	2.0	1 - 3	通年	随時	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎	リスク・レジリエンス工学に関するグループPBLにアドバイザーとしてコミットさせることにより、問題の設定、プロジェクトのマネジメント、成果のとりまとめ、発表までのプロセスを指導できる能力を会得させる。	オンライン(オンデマンド型)。オンライン(同時双方向型)。対面
OBLC509	リスク・レジリエンス工学博士プロジェクト研究	3	2.0	1 - 3	通年	随時	三崎 広海, 高安 亮紀, 面 和成, 鈴木 研悟, 齊藤 裕一, 木下 陽平, 吉田 健一, 片岸 一起, 倉橋 節也, 津田 和彦, 鈴木 勉, 羽田野 祐子, 古川 宏, 木野 泰伸, イリチュ 美佳, 遠藤 靖典, 岡島 敬一, 谷口 綾子, 伊藤 誠, 梅本 通孝, 西出 隆志, 秋元 祐太郎	リスク・レジリエンス工学に関するプロジェクトを独自に提案し、調査・分析に基づいて問題の構造およびプロセスの解明とメカニズムの分析を行い、問題解決のための方策を提言する。	オンライン(同時双方向型)。対面

★原子力規制人材育成事業教育課程授業科目

紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としての コンソーシアム活動報告刊行の延期について

筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー
岡島敬一

リスク・レジリエンス工学学位プログラムの紀要「リスク・レジリエンス工学研究」の別冊としてコンソーシアム活動報告を刊行することについて、次の理由により刊行を延期・再検討することとなりましたので、ご報告いたします。

【理由・経緯】

第 11 回レジリエンス研究教育推進コンソーシアム運営委員会（令和 3 年 10 月 13 日開催）において、リスク・レジリエンス工学学位プログラムの紀要「リスク・レジリエンス工学研究」の別冊として、コンソーシアムの活動報告を刊行することが承認された。

その後、リスク・レジリエンス工学学位プログラム広報委員会やコンソーシアム事務局と検討を重ねた結果、別冊の形態ではなく、現行の学位プログラム紀要を発展させる形でコンソーシアムとしての紀要の整備を進めていくことが望ましいとの結論に至り、令和 3 年度は別冊としての刊行は延期し、令和 4 年度以降の刊行に向けて再度検討を進めていくこととなった。

以上

世の中を、**リスク**で診る。
レジリエンスで、未来を看る。



リスク・レジリエンス工学 学位プログラム
Master's/Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering

あなたの個人情報はスマホ経由で全世界へとつながれ、
あなたの暮らしは、道路・水道・電気・ガスなどのライフライン頼み。

あなたの家は約 2,000 以上の活断層が走る地震列島に建ち、
その日本は、大きな環境問題を抱える、地球という惑星の一部です。

現代社会にひそむ無数の「リスク」。

有事からしなやかに復旧するための「レジリエンス」。

時代が待望するこの分野で学び、自らの手で、未来を創り出してみませんか？

筑波大学大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
リスク・レジリエンス工学学位プログラム
オープンキャンパス

2022. **4/24** 日

場所：オンライン開催

一部、現地開催を予定しております。詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.risk.tsukuba.ac.jp/>

リスク・レジリエンス工学 検索